ＡＭＳ-７００６ＷＩＮ
Ｖｅｒ．7.2
取扱説明書

この度はデータコレクタ用パソコンソフトＡＭＳ-７００６ＷＩＮをお買い求め頂きまして誠にありがとうございます。
本アプリケーションソフトは,Ｗｉｎｄｏｗｓ９５以上のＯＳ上で動作いたします。また,Ｗｉｎｄｏｗｓの基本的な操作知識だけでデータコレクタの多彩な機能を十分にご利用いただけるように配慮いたしました。

ＡＥ－１００１４５
第1版　２００３年7月

〒１５３－００６４
東京都目黒区下目黒 ２－４－５
安立計器株式会社
ＴＥＬ．０３－３４９１－９１８１
ＦＡＸ．０３－３４９３－６７２９

本書は，予告なしに一部変更することがございますので予めご了承下さい。
また，本取扱説明書に不備な点等ございましたら，弊社窓口までご連絡下さい。

Ｗｉｎｄｏｗｓは，Ｍｉｃｒｏｓｏｆｔ社の登録商標です。
Ｅｘｃｅｌ及びＷｏｒｄは，Ｍｉｃｒｏｓｏｆｔ社の登録商標です。
Ｌｏｔｕｓ１－２－３は，Lotus Development Corporationの登録商標です。

目　次

1　概　要 …… 1

2　梱　包 …… 1

3　ご使用になる前に …… 1

4　セットアップ …… 3

4．1　保管方法 …… 3

4．2　インストール …… 3

4．3　インストールの前に

4．4　アンインストールについて …… 6

4．5　接続方法 …… 6

4．6　プリンタ …… 7

5　基本操作 …… 7

6　操作方法 …… 8

6．1　起動画面 …… 8

6．2　ファイル（F） …… 9

6．3　編　集（E） …… 13

6．4　表　示（V） …… 14

6．5　設　定（S） …… 17

6．6　通　信（C） …… 21

6．7　ヘルプ（H） …… 32

7　エラーメッセージ …… 33

8　資　料 …… 35

1 概 要

AMS-７００６ＷＩＮは，データコレクタ用アプリケーションソフトとして，Ｗｉｎｄｏｗｓ上での動作を目的に開発されました。このソフトによりＷｉｎｄｏｗｓの基本的な操作知識による簡単な操作で，データコレクタシリーズの機能を存分に活用することが可能となっております。

2 梱 包

本製品を購入時に，次のものが入っていることをご確認下さい。万一不備な点等ございましたら購入店もしくは表紙下に記載されている弊社窓口までご連絡下さい。

（１）	ＣＤ－ＲＯＭ	・・・・・　１枚
（２）	取扱説明書	・・・・・　１冊
（３）	ユーザー登録用ＦＡＸシート	・・・・・　１枚

3 ご使用になる前に

本アプリケーションソフトを有効にご利用いただくために，この項をお読みになることをお勧めいたします。

(1)　AMS-７００６ＷＩＮは，下記Ｗｉｎｄｏｗｓが正常に動作する環境でご使用下さい。

- Ｗｉｎｄｏｗｓ ９５
- Ｗｉｎｄｏｗｓ ９８（ＳＥ含む）
- Ｗｉｎｄｏｗｓ Ｍｅ
- Ｗｉｎｄｏｗｓ ＮＴ Workstation Ver4.0 (Service Pack４含む)
- Ｗｉｎｄｏｗｓ ２０００
- Ｗｉｎｄｏｗｓ ＸＰ

(2)　本書では,Ｗｉｎｄｏｗｓの操作方法に関する詳細を割愛させていただきます。詳細はＷｉｎｄｏｗｓに関する各種マニュアル書等をご確認下さい。

- Ｗｉｎｄｏｗｓでは，設定あるいは表示が不可能な項目は操作できないように灰色文字にて影になっております。その項目が有効時に黒色文字になりますので，本アプリケーションでも同様に注意して下さい。

- 本書に掲載されている説明画面は，お使いのＷｉｎｄｏｗｓのバージョンにより若干異なることがありますのでご注意下さい。

(3)　本アプリケーションは，作成するデータファイルの更新日時を，データコレクタ本体に記憶されている計測開始日時で処理します。
この際に，データコレクタ本体に記憶されている２桁の年号を４桁（西暦）に変換いたしますので，データコレクタ本体に設定する年号は，西暦の下２桁で行って下さい。
（参照：Ｐ．２２【データ入力（Ｉ）】）

(4)　本アプリケーションソフトにて対応するデータコレクタの機種は下記の機種となりますのでご注意ください。

適応機種

ＡＭ－７００２，ＡＭ－７１０２，ＡＭ－７０５２，
ＡＭ－７０１２，ＡＭ－７１１２，ＡＭ－７０６２，
ＡＭ－７２００，ＡＭ－７３００
（高速版（ＨＳ）を含む）

(5)　弊社製ソフト，ＡＭＳ７００３，ＡＭＳ７００５，ＡＭＳ７００６ＷＩＮのデータファイルには互換性がありますので，相互にて利用することが可能です。

(6)　データコレクタとパソコン間で通信を行うためにＲＳ－２３２Ｃケーブルで接続する必要があります。ケーブルはデータコレクタの通信コネクタとパソコンのシリアルポートの形状（ピン数等）によって変わりますのでご注意ください。

(7)　本アプリケーションソフトでデータコレクタと通信を行う際のボーレート（通信速度）は次の通りです。

９６００ｂｐｓ

データコレクタ本体のバージョンがＶｅｒ．１．０ｈではない場合，ボーレートを９６００ｂｐｓに設定する必要がありますのでご注意ください。

(8)　ＡＭＳ-７００６ＷＩＮは，アプリケーションの終了時に以下の内容を保存します。従って，次回起動時には終了時の状態で起動されます。

- ファイルのドライブ指定
- 通信ポートの指定
- 表示モードの指定（グラフ，データ，備考）
- グラフ色の指定

※　但し，停電等によりソフトが正常に終了されなかった場合には更新されません。終了は，アプリケーションの終了によって行って下さい。

４ セットアップ

４．１　保管方法

購入したシステムディスク（ＣＤ－ＲＯＭ）は，直射日光の当たらないほこりの少ない場所にケースに入れて保管して下さい。

４．２　インストールの前に

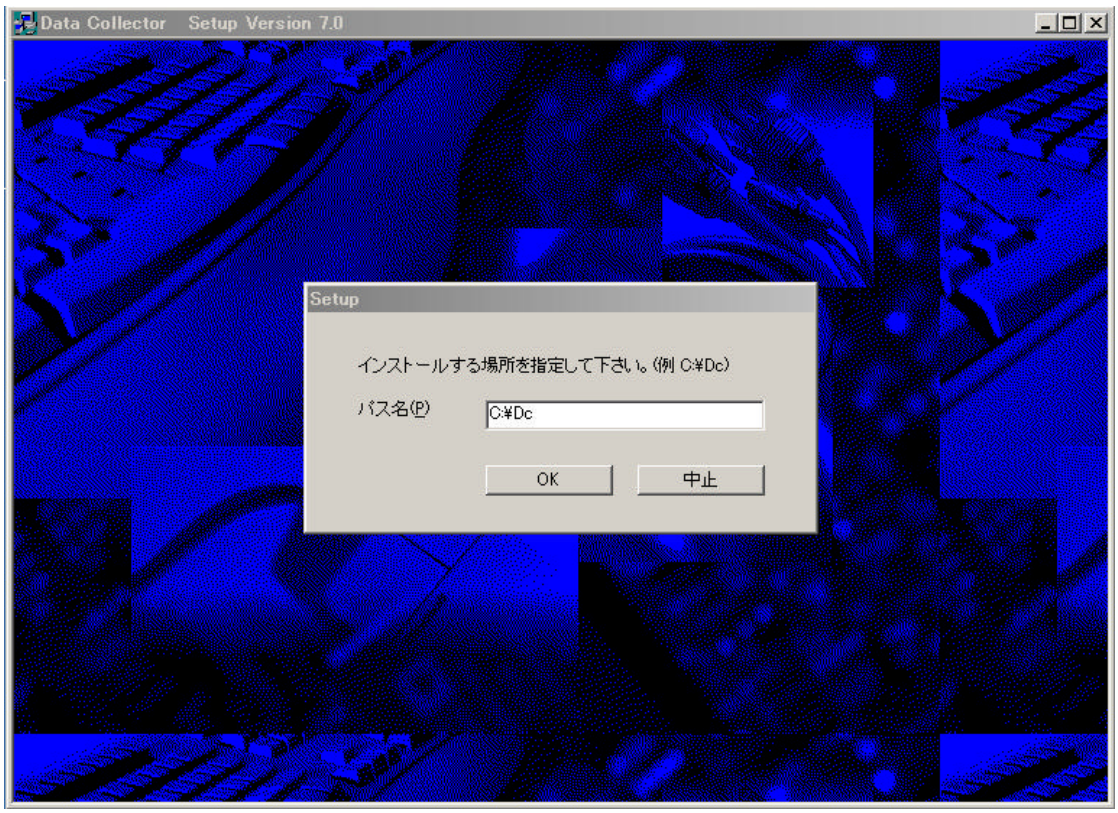
すでに以前のバージョンのＡＭＳ-７００６ＷＩＮがインストールされている場合は,インストールした場所(通常はC:\)にあるＤｃという名前のフォルダを削除して下さい。
また，ディスクトップ等にショートカットを作成してある場合はショートカットも削除して下さい。
【注意】“Ｄｃ”という名前のフォルダ内に“Ｄａｔａ”という名前のフォルダが存在します。フォルダ“Ｄｃ”を削除しますと，フォルダ“Ｄａｔａ”内のデータは全て消去されますのでご注意下さい。
（必要なデータは必ず別の場所に待避させてから削除して下さい。）

４．３　インストール

インストールする前に，起動しているアプリケーションソフトを全て終了させて下さい。他のアプリケーションソフトが起動していると，インストールが正常に行われない場合があります。

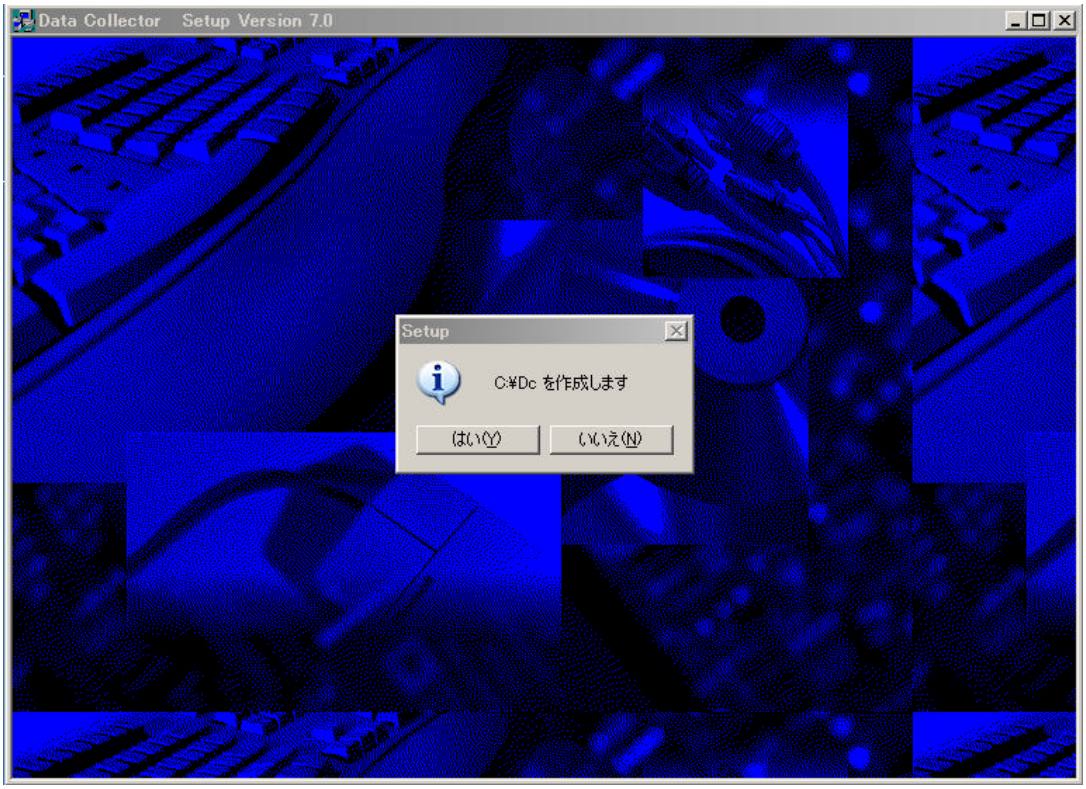
ＡＭＳ-７００６ＷＩＮ　Ｖｅｒ．７．２のＣＤ－ＲＯＭをインストールするパソコンにセットしますと，自動的にセットアップメニューが起動します。

インストールする場所を入力してください。通常はC:\Dc（ﾃﾞﾌｫﾙﾄ）をおすすめいたします。



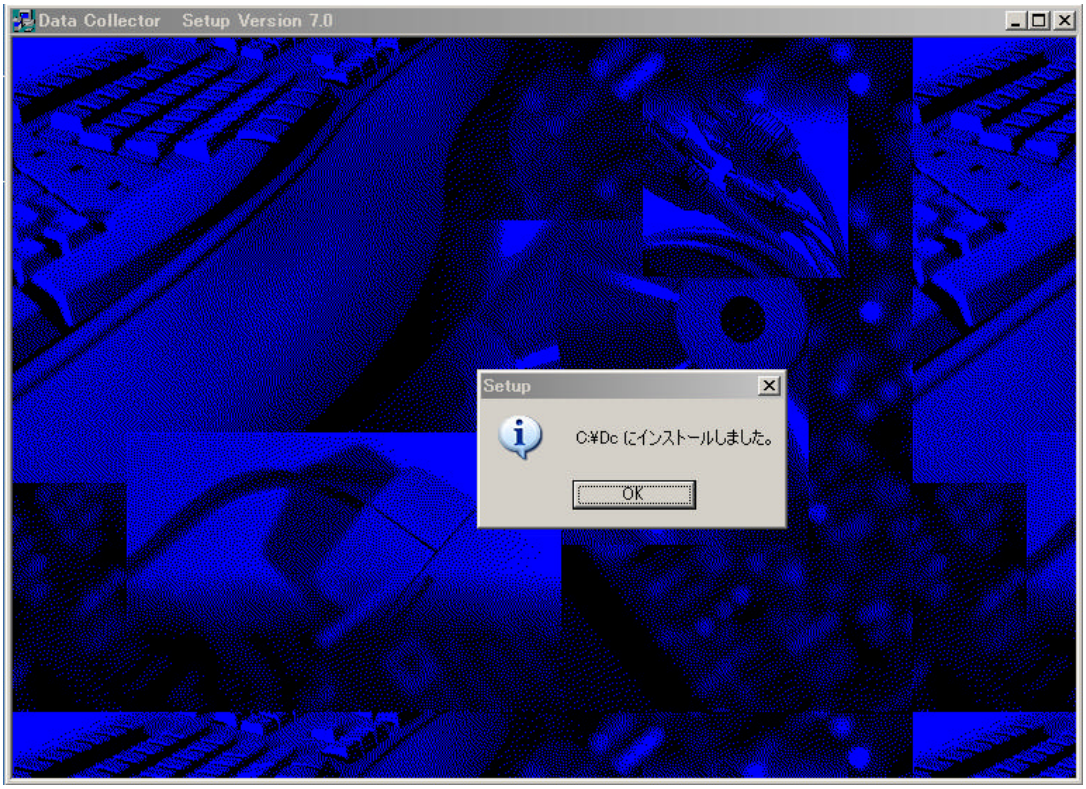
（図１　ｲﾝｽﾄｰﾙする場所の指定画面）

パス名を入力し，“ＯＫ”を押しますとインストールするフォルダの作成を確認しますので“ＯＫ”を押して下さい。



（図２　ﾃﾞｨﾚｸﾄﾘ作成確認画面）

以上で，アプリケーションソフトのインストールが完了します。



（図３　ｲﾝｽﾄｰﾙ終了画面）

４．４　アンインストールについて

インストールした場所(通常はC:\)にあるＤｃという名前のフォルダを削除して下さい。また，ディスクトップ上にあるＤｃという名前のショートカットも削除して下さい。

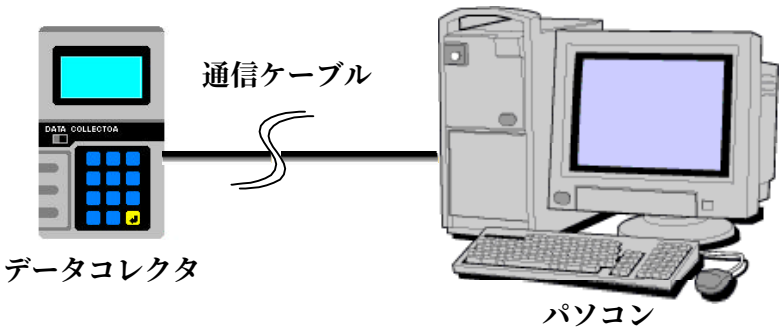
【注意】“Ｄｃ”という名前のフォルダ内に“Ｄａｔａ”という名前のフォルダが存在します。フォルダ“Ｄｃ”を削除しますと，フォルダ“Ｄａｔａ”内のデータは全て消去されますのでご注意下さい。

４．５　接続方法

【必要なもの】

(1)　データコレクタ
(2)　パーソナルコンピュータ
(3)　弊社製通信ケーブル（参照：Ｐ．２　(6)）

【接続方法】



（図４　接続図）

データコレクタの通信コネクタとパソコンのシリアルポート(｜○｜○｜)間を，弊社製通信ケーブルで接続して下さい。

【注意】パソコンと通信を行わない場合は，必ずデータコレクタをパソコンから切り離して（通信ケーブルから外して）下さい。
接続したまま他のアプリケーションソフトを使用しますと、データコレクタの誤動作及び，故障の原因となります。

【ポートの設定】

データコレクタを接続したポートを，AMS-７００６ＷＩＮ上で指定する必要があります。メニューの“**通信**（C）”で設定を行って下さい。
（参照：Ｐ．３１【シリアルポート】）

【通信速度】

本アプリケーションソフトとデータコレクタ間で通信をする際のボーレート（通信速度）は，９６００ｂｐｓです。ご使用になる前に，データコレクタ本体のボーレートを９６００ｂｐｓに設定して下さい。但し，データコレクタ本体のバージョンがＶｅｒ.１.０ｈの場合は設定の必要はありません。

４．６　プリンタ

AMS-７００６ＷＩＮは，白黒印刷，及びカラー印刷に対応しています。
プリンタがＷｉｎｄｏｗｓ上でご使用になれるように，予めプリンタドライバの登録や設定を行って下さい。
尚，プリンタの設定等に関してはＷｉｎｄｏｗｓのマニュアル書等を参照して下さい。

※　ご使用のプリンタが白黒プリンタの場合にカラー印刷を行いますと，印字が鮮明に行われない場合があります。ご使用のプリンタに合わせた設定を行って下さい。

5 基本操作

本ソフト上での基本的な操作方法について説明します。

(1)　マウス，及びキーボードによる操作

AMS-７００６ＷＩＮは，マウス，及びキーボードにより操作する事が可能です。

マウス操作：

選択する項目の上にマウスカーソルを移動し，マウスの左ボタンを押す（クリックする）とマウスカーソルの下の項目を選択することができます。
また，表示画面にてデータの表示ではマウスのスクロール機能が使用できます。

キーボード操作：

キー操作可能な項目の右側には，“ファイル（F）”のように記号がついています。
操作方法は次の通りです。

- **メニュー：**
  ＡＬＴ（ＧＲＰＨ）＋記号 キー
  （ファイル（F），通信（C）など）

- **プルダウンメニュー：**
  記号 キー
  （開く（O），印刷（P）など）

- **ＴＡＢ キー：**
  選択箇所をマウスにて移動するほか，“ＴＡＢキー”によって移動することができます。移動後，各種操作を行って下さい。
  （ダイアログボックス内の項目間を移動するときなど）

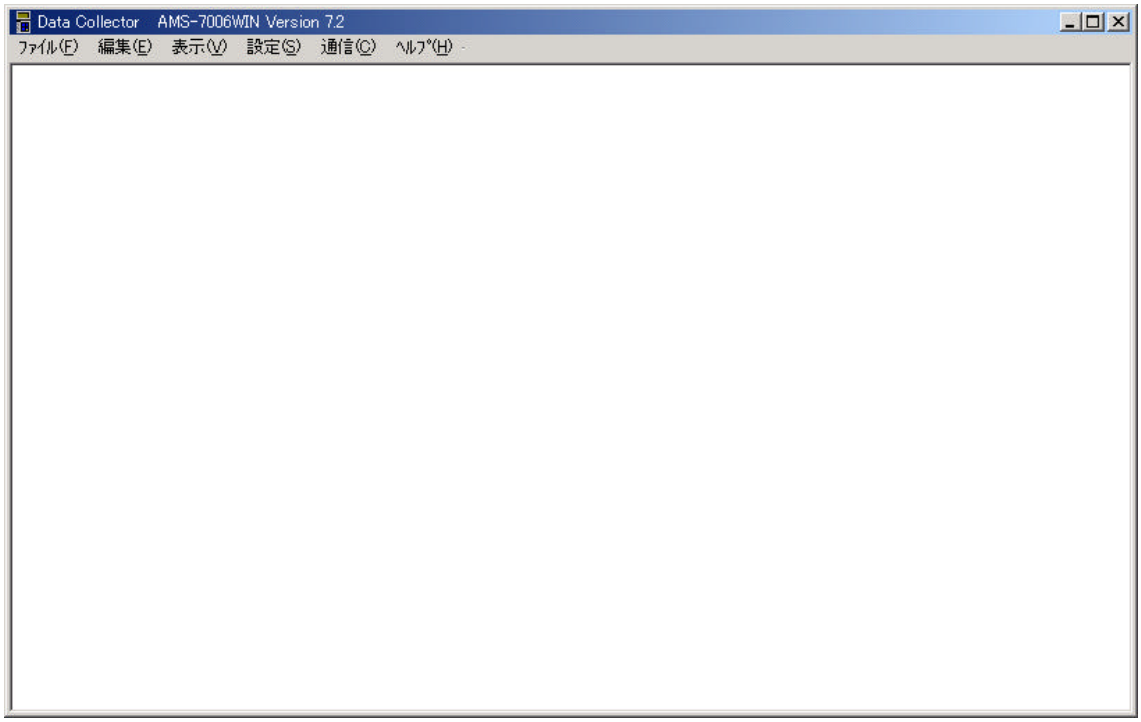
６ 操作方法

６．１　起動画面

ＡＭＳ-７００６ＷＩＮを起動します。
ソフトの起動は，次の何れかの方法で行って下さい。

- セットアップしたフォルダ内のＤｃを呼び出してダブルクリックして下さい。
- セットアップの際に作成したアイコンをダブルクリックして下さい。
- 作成したデータ(Ａｍ－＊＊＊＊．ａｎ２)をダブルクリックすることにより，自動起動し，そのデータを表示します。

次のような起動画面が開きます。



（図５　起動画面）

※ 他にＡＭ－７００６ＷＩＮと同じシリアルポートを使用しているソフトを起動させている場合，そのソフトを終了させてからＡＭ－７００６ＷＩＮを起動させて下さい。

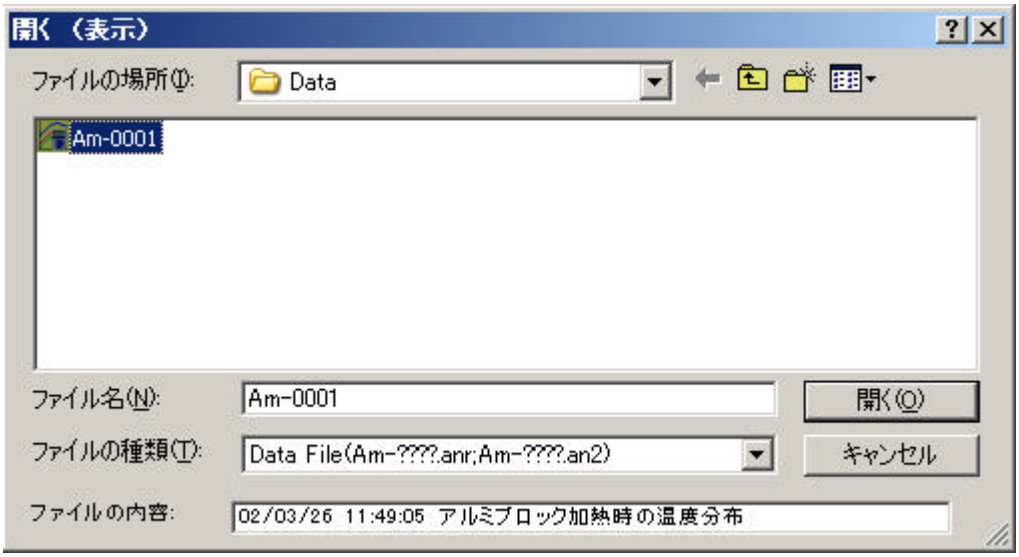
6．2　ファイル（F）

ファイル（F）を選択して下さい。プルダウンメニューが開きます。

（図６　ﾌｧｲﾙﾒﾆｭｰ画面）

【開く（O）】

プルダウンメニュー内の**開く**（O）を選択して下さい。ファイル管理画面が開きます。



（図７　ﾌｧｲﾙﾒﾆｭｰのﾌｧｲﾙ管理画面）

データを保存しているドライブ，ディレクトリを選択してから開きたいファイルを選択して下さい。ファイル名の欄に選択したファイル名が表示されていることを確認してから，“**開く**（O）”を押して下さい。

※　**ファイル名**（N）:の欄が“Am－？？？？．ａｎ？”（ファイル未選択）の状態では確定できません。

【印刷（P）】

画面に表示されているグラフ，データ，及び備考を印刷します。
また，Ｗｉｎｄｏｗｓ９５でデータの印刷ができない場合があります。その場合はテキストファイルを作成し表計算ソフトにて印刷して下さい。
（参照：　Ｐ．１０**【テキスト・ファイルの作成（T）】**及び　Ｐ．３４　**８　参考資料**）

ｸﾞﾗﾌのﾌﾟﾘﾝﾀ出力　白黒（B）にチェックマーク（レ点）がついている場合は，白黒印刷また，**ｸﾞﾗﾌのﾌﾟﾘﾝﾀ出力　カラー**（C）にチェックマーク（レ点）がついている場合は，カラー印刷となります。
※白黒印刷，カラー印刷の設定は，プリンタの機種に依存します。お使いのプリンタが白黒プリンタの場合に，カラー印刷を行いますと印刷が鮮明に行われませんので，ご使用のプリンタに適した設定でご使用下さい。

【印刷プレビュー（V）】

画面に表示されているグラフ，データ，及び備考を印刷したときのイメージが表示されます。

【プリンタの設定（R）】

プリンタの設定（機種設定，印刷の向き，及び用紙設定等）を行います。

【テキスト・ファイルの作成（T）】

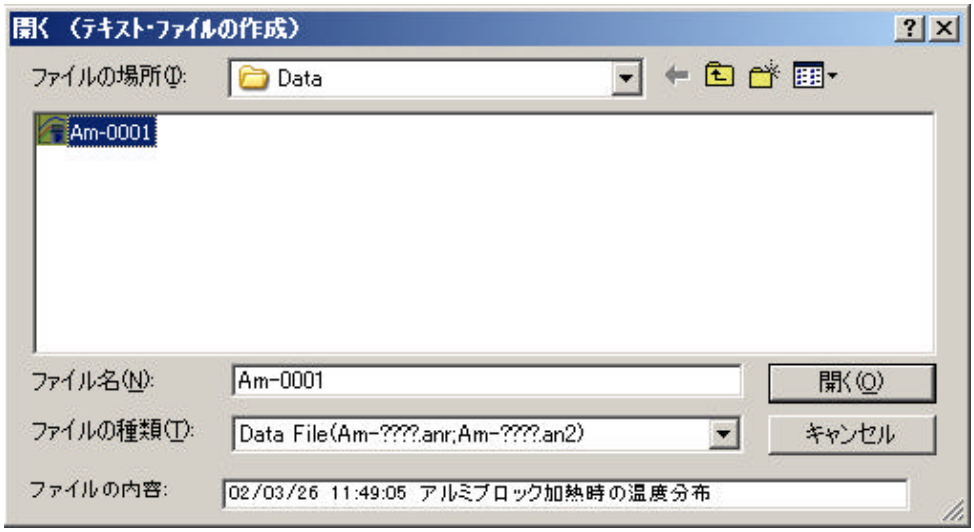
本ソフトウェアでデータコレクタより入力したデータファイルを，Ｌｏｔｕｓ１－２－３やＥｘｃｅｌ等の表計算ソフトにて読み込み可能な形式に変換することができます。
変換後のファイルは，変換元のファイルと同じディレクトリに作成されます。また，ファイル名は変換元のファイル名の拡張子を“．ｐｒｎ”に変えた名前になります。

（例）

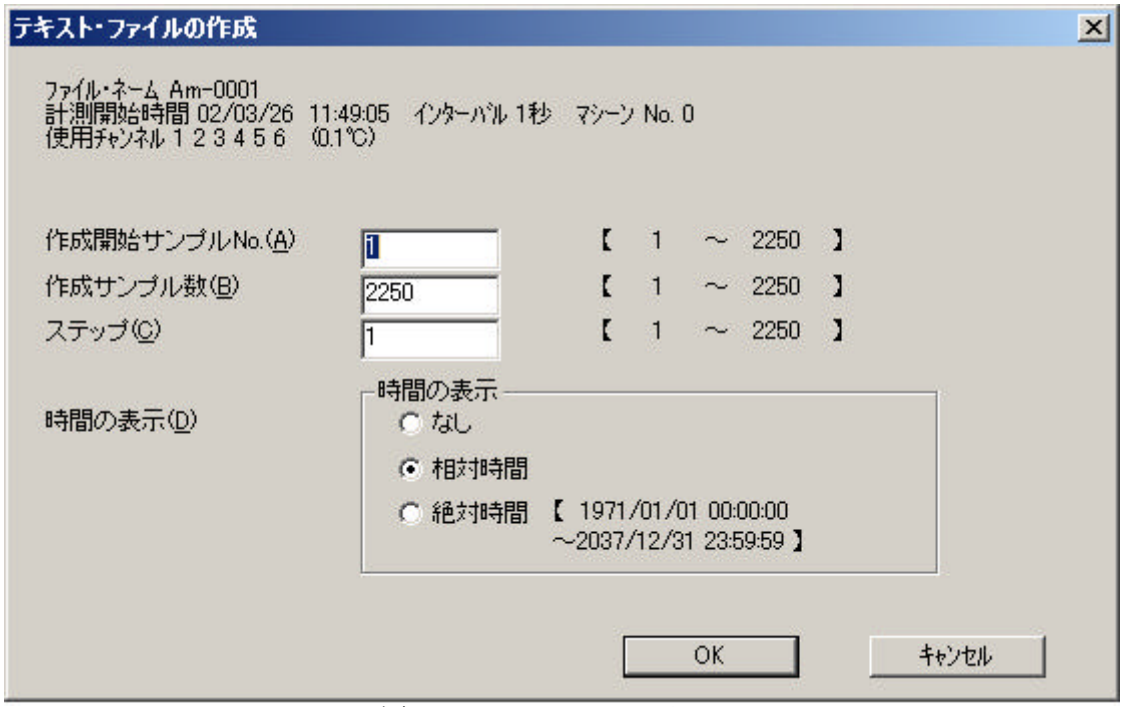
変換元ファイル
Ｃ：￥Ｄｃ￥Ｄａｔａ￥Ａｍ－０００１．ａｎ２
変換後ファイル
Ｃ：￥Ｄｃ￥Ｄａｔａ￥ＡＭ－０００１．ｐｒｎ

（操作方法）

プルダウンメニューの**テキストファイルの作成**（T）を選択して下さい。
ファイル管理画面が表示されますので，テキストファイルに変換するファイルを指定して下さい。



（**図８**　ﾃｷｽﾄ･ﾌｧｲﾙ管理画面）



（図９　ﾃｷｽﾄ･ﾌｧｲﾙ設定画面）

(1)　**作成開始サンプルNo.（A）**
何番目のデータからテキストファイルを作成するか設定します。

(2)　**作成サンプル数（B）**
１ファイルに何データ作成するか設定します。

実際に作成されるデータ数は,
（データ数）　＝　作成データ数　／　ステップ数
と，なります。

(3)　**ステップ（C）**
データファイルを間引きしてテキストファイルを作成することができます。

※　表計算ソフトによっては一度に読み込み可能なデータ数が決められていますので, 多量のデータに関しては, 前記の設定にて間引きや分割を行って下さい。

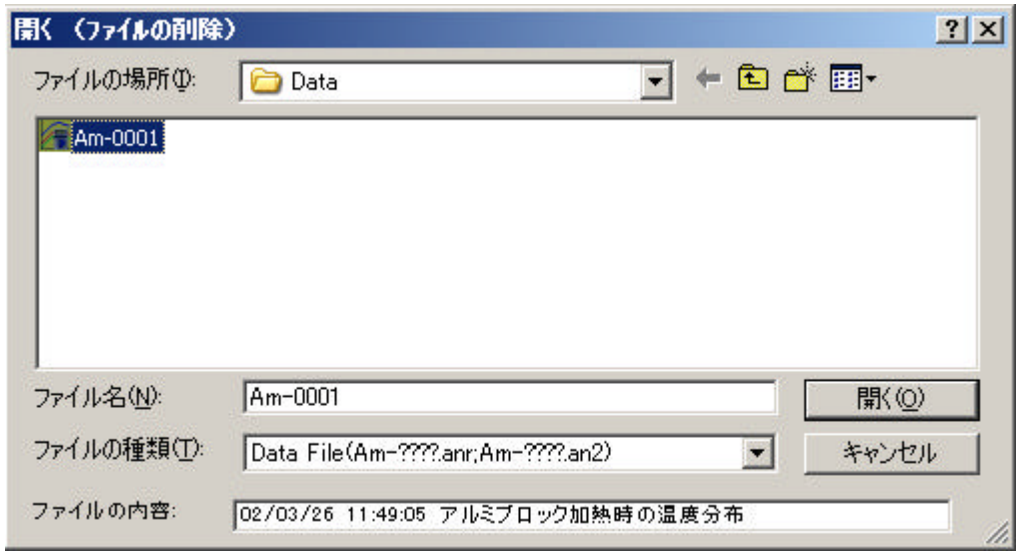
(4)　**時間の表示（D）**
テキストファイル変換後のデータ形式を決めます。

- **なし**
  サンプルNo.，計測データの表示（参照：P．３８）
- **相対時間**
  サンプルNo.，相対時間，計測データの表示（参照：P．３９）
- **絶対時間**
  サンプルNo.，絶対時間，計測データの表示（参照：P．４０）

※ マニュアルモードで計測したデータファイルでは，“相対時間”，“絶対時間”を選択できません。
※ 計測インターバルが，ミリ秒，マイクロ秒のデータファイルでは，“絶対時間”を選択できません。
※ 相対時間の表示は，00:00:00～23:59:59（時：分：秒）の範囲内での表示しかできません。２４時間以上の計測データの場合は，この繰り返しになりますのでご了承下さい。
※ 絶対時間の表示は，1971/01/01 00:00:00～2037/12/31 23:59:59までのデータでご利用下さい。この期間外のデータでは，日時の表示が行われません。

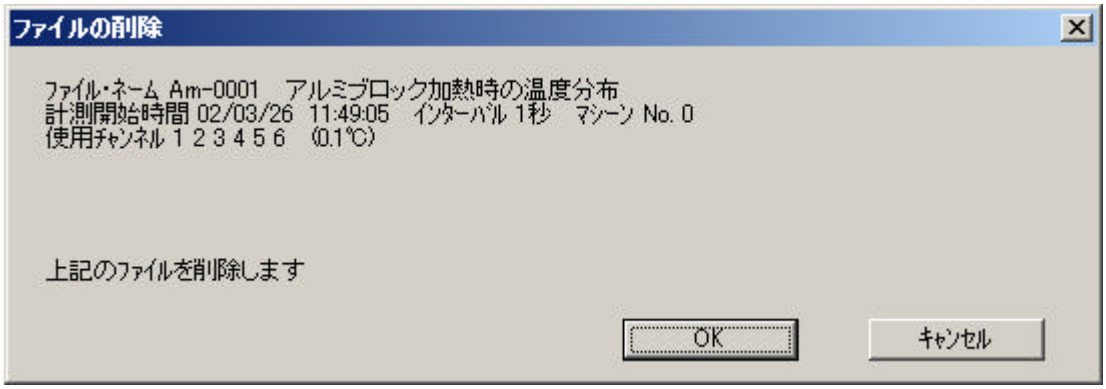
【ファイルの削除（D）】

プルダウンメニューの**ファイルの削除**（D）を選択して下さい。ファイル管理画面が表示されます。



（図１０　削除ﾌｧｲﾙ管理画面）

削除するファイルを選択し，“**開く**（O）”を押すと次のようなメッセージボックスが表示されます。



（図１１　削除ﾌｧｲﾙ確認画面）

上記ファイルを削除しても良い場合は，“ＯＫ”を押して下さい。

【アプリケーションの終了（X）】
アプリケーションを終了します。
尚，アプリケーションの終了時には，ファイル管理画面でのドライブ名，シリアルポートの設定，表示モードの設定，及びグラフの表示色を保存するため，再起動時に終了時の状態で起動することができます。
但し，停電やパソコンのハングアップ等により，アプリケーションが異常終了した場合には保存されません。

（図１２　終了確認画面）

ＡＭＳ-７００６ＷＩＮ　Ｖｅｒ．７．２　を終了しても良い場合は“はい（Y）”を押して下さい。

６．３　編 集（E）

現在表示している画面をクリップボードにコピーします。
編集（E）を選択して下さい。次のようなプルダウンメニューが開きます。

（図１３　編集ﾒﾆｭｰ画面）

【コピー（C）】
プルダウンメニュー内の**コピー**（C）を選択して下さい。
クリップボードに画面がコピーされます。
ＷｏｒｄやＥｘｃｅｌ等に貼り付けることが可能です。（参照：Ｐ．４１）
また，クリップボードには１画面しかコピーできません。複数の画面をコピーする場合は，その都度貼り付けを行って下さい。

６．４　表 示（V）

現在開いているファイルの表示スタイルを変更します。
表示（V）を選択して下さい。次のようなプルダウンメニューが開きます。

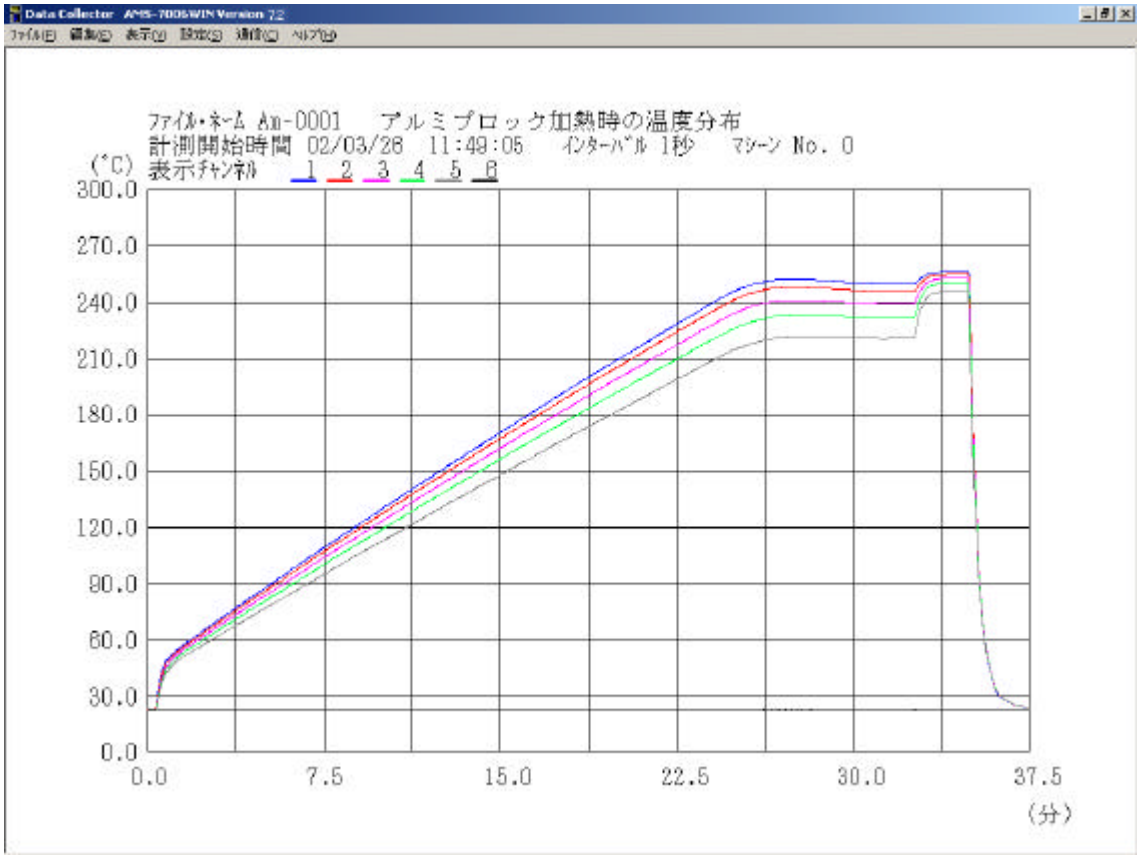
（**図１４**　表示ﾒﾆｭｰ画面）

【グラフの表示（G）】
　プルダウンメニュー内の**グラフの表示**（G）を選択して下さい。
　表示がグラフの表示に変わります。
　（参照：図１５（ｸﾞﾗﾌの表示画面））

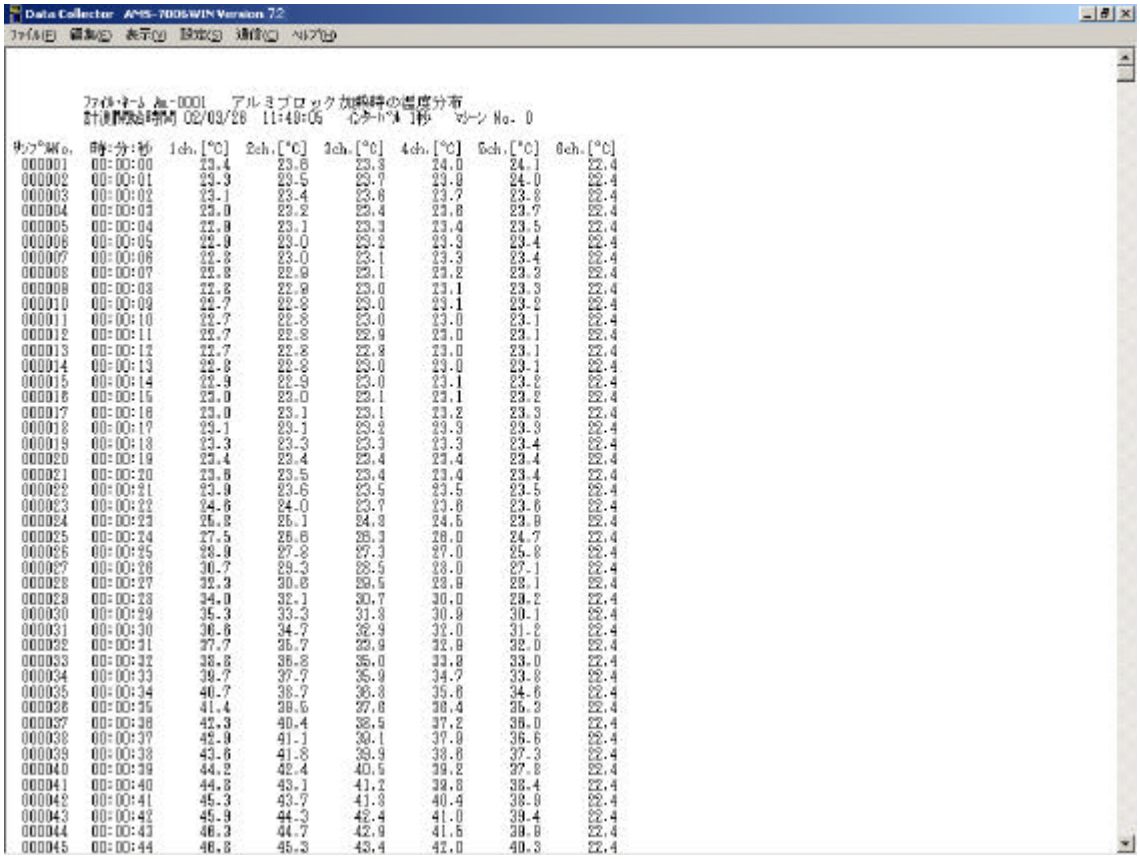
【データの表示（D）】
　プルダウンメニュー内の**データの表示**（D）を選択して下さい。
　表示がデータの表示に変わります。
　（参照：図１６（ﾃﾞｰﾀの表示画面））

【備考の表示（R）】
　プルダウンメニュー内の備考の表示（R）を選択して下さい。
　表示が備考の表示に変わります。
　（参照：図１７（備考の表示画面））

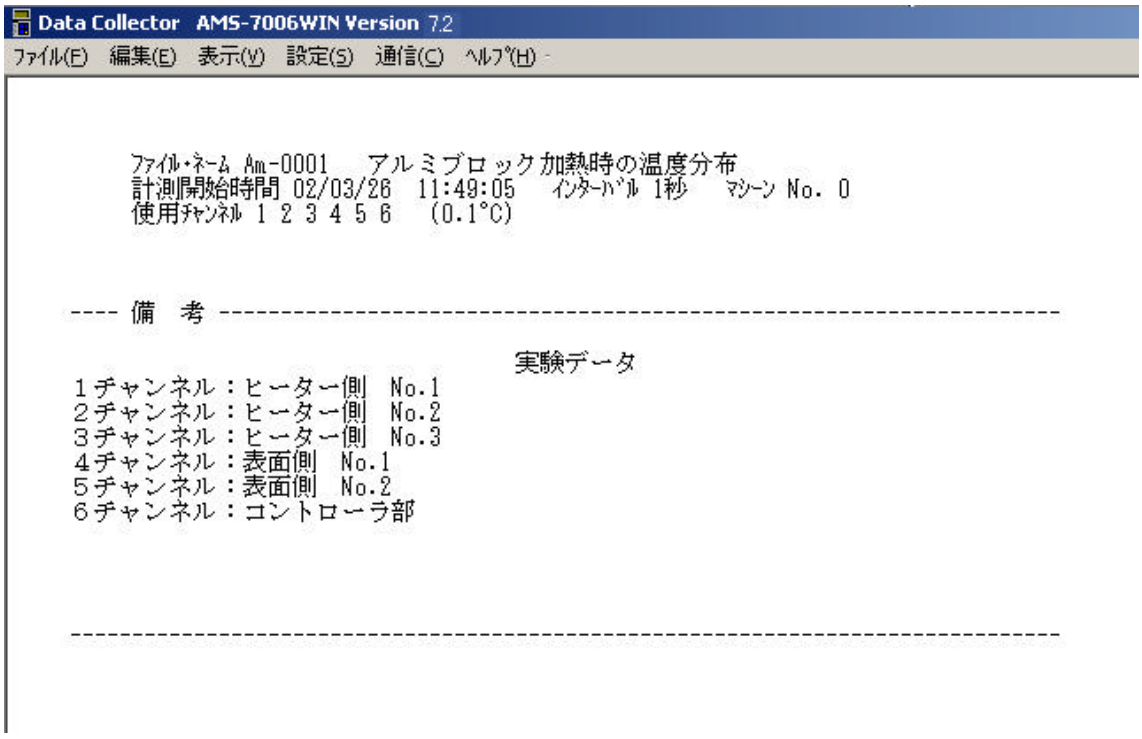
ご注意
テスト（T）はご使用になれません。予めご了承下さい。



（図１５　ｸﾞﾗﾌの表示画面）



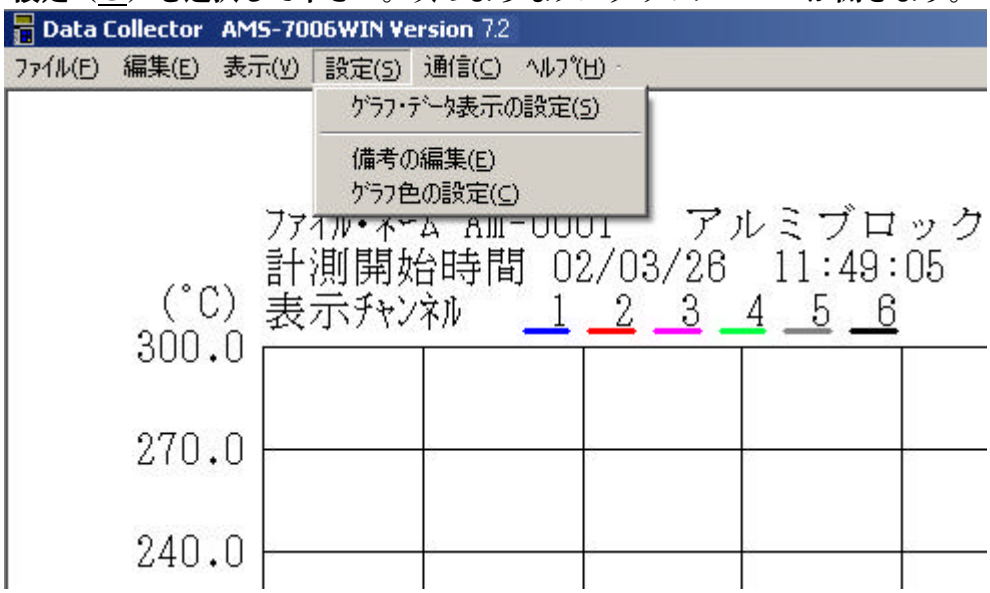
（図１６　ﾃﾞｰﾀの表示画面）



（図１７　備考の表示画面）

6．5　設 定（S）

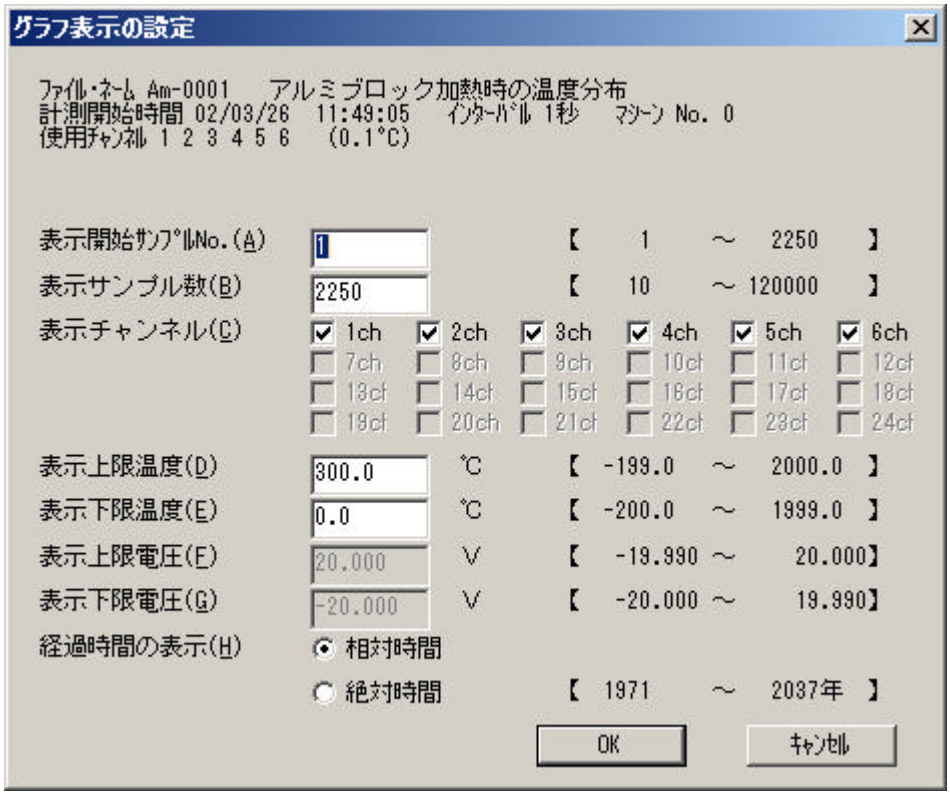
現在開いているグラフ，及びデータの表示形式，グラフの色及び，備考の編集を行います。
設定（S）を選択して下さい。次のようなプルダウンメニューが開きます。



（図１８　設定ﾒﾆｭｰ画面）

【グラフ・データ表示の設定（S）】

グラフ表示に対しての各種設定を行います。グラフ表示の設定を選択して下さい。
（グラフ表示中のみ選択可）



（図１９　ｸﾞﾗﾌ表示の設定画面）

各項目に設定値を入力してから“ＯＫ”を押して下さい。
尚，各項目の右側に記載されている値が設定可能範囲です。

(1)　**表示開始サンプルＮｏ．**（A）
ファイルに保存しているデータの何番目から表示するかを設定します。

(2)　**表示サンプル数**（B）
画面内に表示されるデータ数を設定します。

(3)　**表示チャンネル**（C）
画面に表示するチャンネルを選択して下さい。チェックマーク（レ点）のついているチャンネルのデータが表示されます。

(4)　**表示上限温度**（D）
グラフの温度に関する目盛りの最大値を設定します。

(5)　**表示下限温度**（E）
グラフの温度に関する目盛りの最小値を設定します。

(6)　**表示上限電圧**（F）
グラフの電圧に関する目盛りの最大値を設定します。

(7)　**表示下限電圧**（G）
グラフの電圧に関する目盛りの最小値を設定します。

(8)　**経過時間の表示**（H）
グラフの経過時間表示形式を決めます。

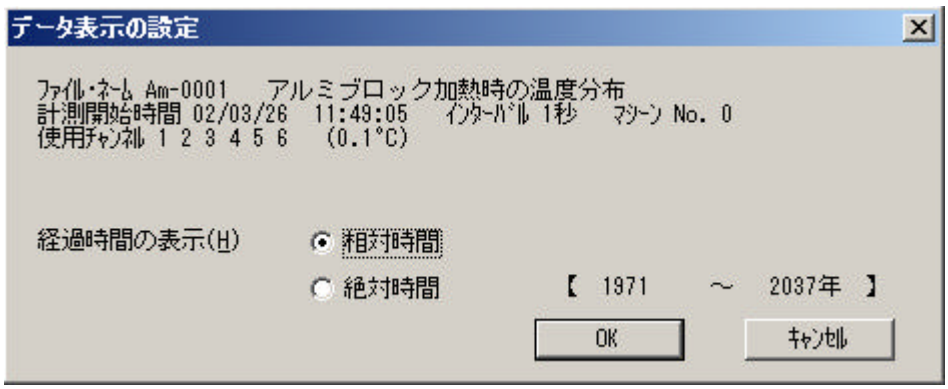
- **相対時間**
  時間軸スケールを相対時間で表示します。

- **絶対時間**
  時間軸スケールを絶対時間で表示します。

※（4）～（7）はデータコレクタの機種によって選択できないものがあります。

【データ表示の設定（D）】

データ表示に対しての各種設定を行います。データ表示の設定を選択して下さい。（データ表示中のみ選択可）



（図２０　ﾃﾞｰﾀ表示の設定画面）

経過時間の表示形式を設定してから“ＯＫ”を押して下さい。

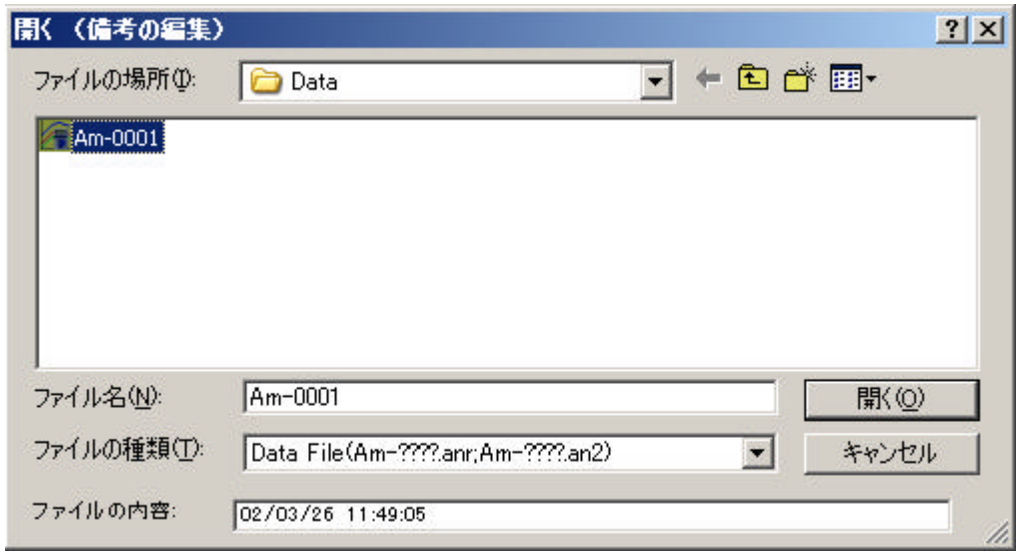
(1)　**経過時間の表示（H）**

- **相対時間**
  時間を相対時間で表示します。

- **絶対時間**
  時間を絶対時間で表示します。

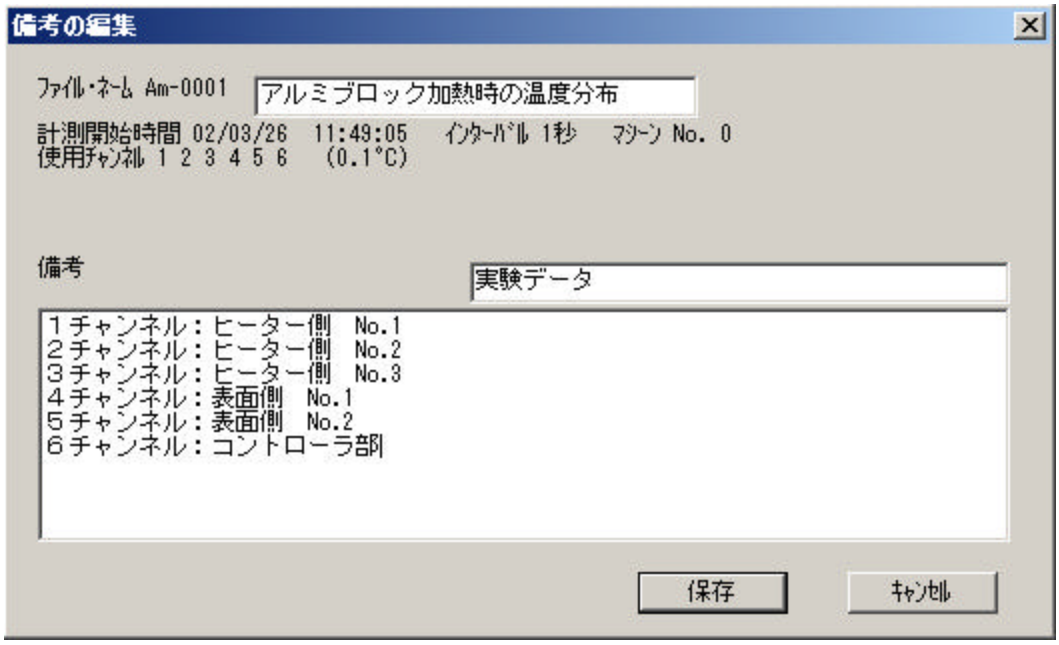
【備考の編集（E）】

プルダウンメニューの**備考の編集**（E）を選択して下さい。ファイル管理画面が表示されます。



（図２１　備考の編集ﾌｧｲﾙ管理画面）

備考を編集するファイルを選択し，“**開く**（O）”を押すと次のようなメッセージボックスが表示されます。



（図２２　備考の編集画面）

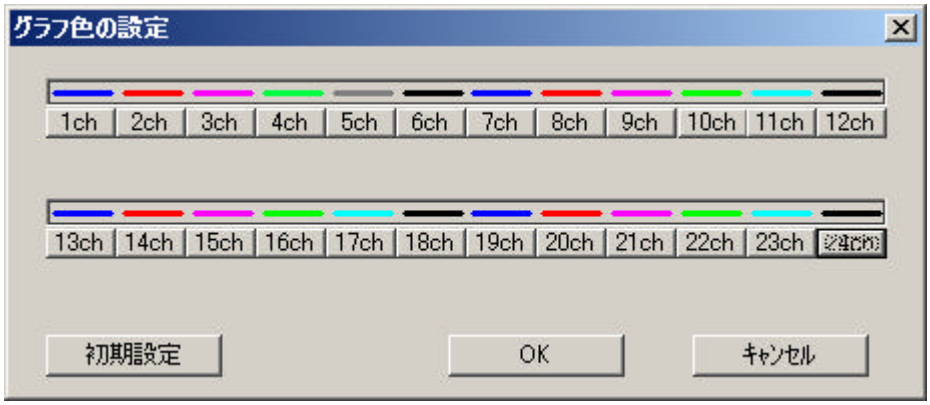
収録したファイルの日時，データ内容，収録時の環境条件等を記載しておくことができます。また，豊富な文字量（全角４０文字 × １０行，半角８０文字 × １０行）のため，省略せず十分に入力することができます。
尚，１行目の全角で１８文字，半角で３６文字目までは，ファイルネームに続いて画面に表示されますので，データの表題などを付けておくと便利です。編集したデータは，“保存”を選択すると保存されます。

※　備考の編集は，編集を行うためのものです。
備考の確認のみの場合は，表示（V）　――＞　備考の表示（R）で行って下さい。

【グラフ色の設定（C）】
グラフのそれぞれのチャンネルに表示色を指定することができます。

プルダウンメニューのグラフ色の設定（C）を選択して下さい。

次のようなダイアログボックスが表示されますので，色変更するチャンネルのプッシュボタンを押して下さい。



（図２３　ｸﾞﾗﾌ色の設定画面）

設定した色は，アプリケーション終了後も保存されておりますので，再起動時に終了時の設定色で表示されます。
また，初期状態のボタンを押すと変更された色は本アプリケーションソフトの出荷時の状態に戻ります。

色の選択，色の作成はＷｉｎｄｏｗｓにて標準とされている画面形式，操作方法と同様ですので通常通りにご利用になれます。

※　ご使用のディスプレイ，プリンタ，及びＷｉｎｄｏｗｓ上の設定などによりカラー印刷での出力結果と，画面イメージが若干異なる場合があります。予めご了承下さい。

６．６　通 信（C）

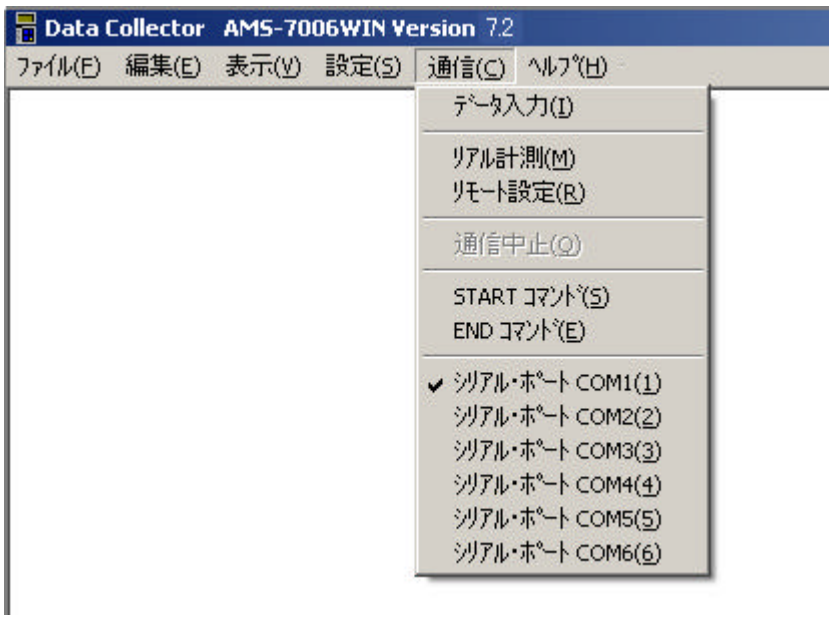
データコレクタとの通信を行います。尚，ボーレート（通信速度）は，

９６００ｂｐｓ

と，なっています。データコレクタ本体のボーレートを９６００ｂｐｓに設定する必要がありますのでご注意ください。但し，データコレクタ本体のバージョンがＶｅｒ．１．０ｈの場合は設定の必要はありません。

※　データコレクタ本体のボーレートの設定方法については本体付属のマニュアルをご参照下さい。

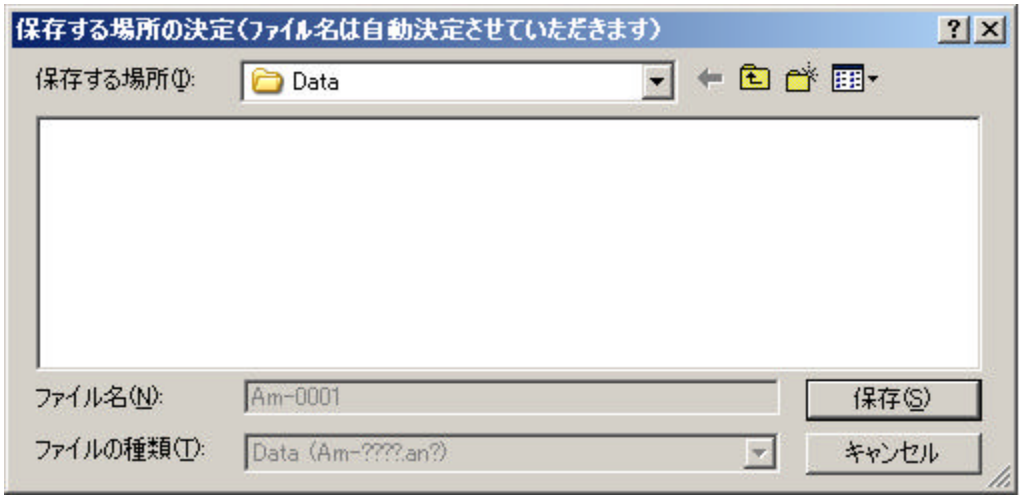
メニューの**通信**（C）を選択して下さい。次のようなプルダウンメニューが表示されます。



（図２４　通信ﾒﾆｭｰ画面）

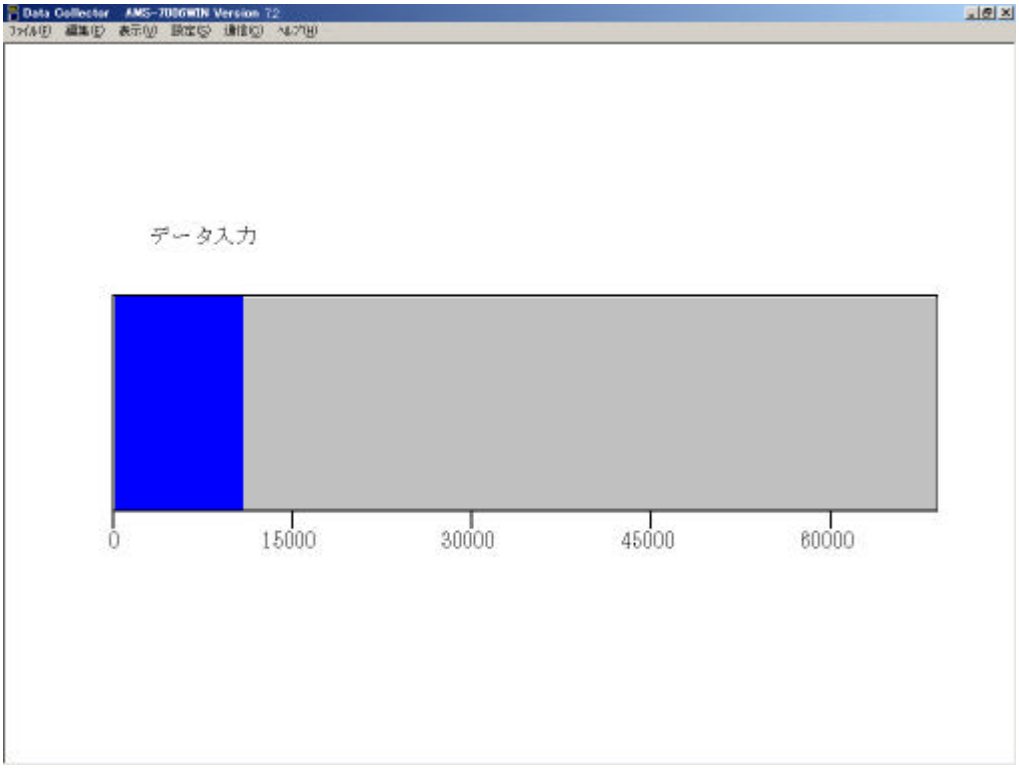
【データ入力（I）】

データコレクタのメモリに蓄えられているデータをパソコン内に取り込みます。
プルダウンメニューの**データ入力**（I）を選択して下さい。
ファイル管理画面が表示されます。



（**図２５**　ﾃﾞｰﾀ入力管理画面）

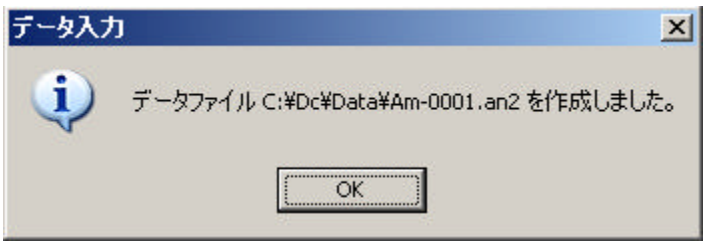
入力したデータを格納する場所を指定すると,保存ファイル名が決まりますので,
“**保存**（S）”を押して下さい。



（**図２６**　ﾃﾞｰﾀ入力中の画面）

※通信中はデータコレクタ本体のキー操作を行わないで下さい。
異常終了・誤動作等の原因となる場合があります。

データ入力終了後，データは先に決めたファイル名で保存されます。
Ａｍ－０００１．ａｎ２～Ａｍ－９９９９．ａｎ２



（図２７　ﾌｧｲﾙ作成確認画面）

このディレクトリ番号は各ディレクトリ毎に１から順に付けられます。また，ファイルを消去してもその他のファイル番号は変化しません。

例えばハードディスクに，９９９９番までのファイルが保存されているときに，０００１番から９９９８番までのファイルを消去した場合，９９９９番のファイルが残ることになります。この場合，最大番号（９９９９番）のファイルが保存されているのでこのディレクトリにこれ以上のデータを保存することはできません。
このディレクトリに新たにデータを格納したい場合は，ファイル名の変更などを行って下さい。

（例）
“Ａｍ－９９９９．ａｎ２”を“Ａｍ－０００１．ａｎ２”に変更

データ入力後も本体側のデータは保存されていますので，通信エラー等があった場合には再度データ入力を行って下さい。

尚，ＡＭＳ-７００６ＷＩＮで作成するデータファイルの容量は，次のようになっています。

- ヘッダファイル　＝　１０２４バイト
- データサイズ　　＝　２バイト
- ファイル容量　　＝　（ヘッダファイル）　＋
　　（データサイズ）　×　（データ数）

（例）データ数が３０００データの場合

（ファイル容量）＝　１０２４　＋　２　×　３０００
＝　７０２４　（バイト）
７　（キロバイト）

（例）データ数が６００００データの場合

（ファイル容量）＝　１０２４　＋　２　×　６００００
＝　１２１０２４　（バイト）
１２０　（キロバイト）

ご注意

本アプリケーションは，作成したデータファイルの更新日時を，データコレクタ本体に記憶されている計測開始日時に合わせて変更しています。
但し，１９８０年～２０３７年（００～３７，８０～９９）以外の計測開始日時が記憶されていた場合は，全て１９８０年に変更いたしますので，ご注意ください。
※ 後述するリアル計測により作成されるファイルも同様です。

【リアル計測（M）】

ＡＭＳ-７００６ＷＩＮはデータコレクタの計測データをリアルタイムにてグラフ表示させることができます。

リアル計測可能なインターバルタイムは，データコレクタの機種によって異なります。次の表をご覧下さい。

機種	インターバル
ＡＭ－７００２ ＡＭ－７０５２ ＡＭ－７１０２ 高速版（ＨＳ）を含む	１秒～９９分５９秒 （１秒毎）
ＡＭ－７０１２ ＡＭ－７０６２ ＡＭ－７１１２ 高速版（ＨＳ）を含む	２秒～９９分５９秒 （１秒毎）
ＡＭ－７２００ ＡＭ－７３００	２秒～９９分５９秒 （１秒毎）

※　計測インターバルは若干のずれが生じる場合があり，実際に計測した時間とデータが異なる事があります。予めご了承下さい。

プルダウンメニューのリアル計測（M）**を選択して下さい。次のようなメッセージボックスが表示されますので，リアル計測するデータの保存の有無を選択して下さい。**

（図２８　ﾘｱﾙ計測ﾃﾞｰﾀ保存確認画面）

※　**“はい（Y）”を選択した場合にはファイルを保存するディレクトリを指定するダイアログが開きますので，ディレクトリを指定して保存ファイル名を決めて下さい。**

リアル計測用の設定ダイアログボックスが開きます。

（図２９　ﾘｱﾙ計測ｸﾞﾗﾌ表示設定画面）

各項目に設定値を入力してから“ＯＫ”を押して下さい。
尚，各項目の右側に記載されている値が設定可能範囲です。

(1) **表示開始サンプルＮｏ．**（A）
常に１に固定です。

(2) **表示サンプル数**（B）
画面内に表示されるデータ数を設定します。設定データ数が表示されると画面はスクロールします。

(3) **表示チャンネル**（C）
画面に表示するチャンネルを選択して下さい。チェックマーク（レ点）のついているチャンネルのデータが表示されます。

(4) **表示上限温度**（D）
グラフの温度に関する目盛りの最大値を設定します。

(5) **表示下限温度**（E）
グラフの温度に関する目盛りの最小値を設定します。

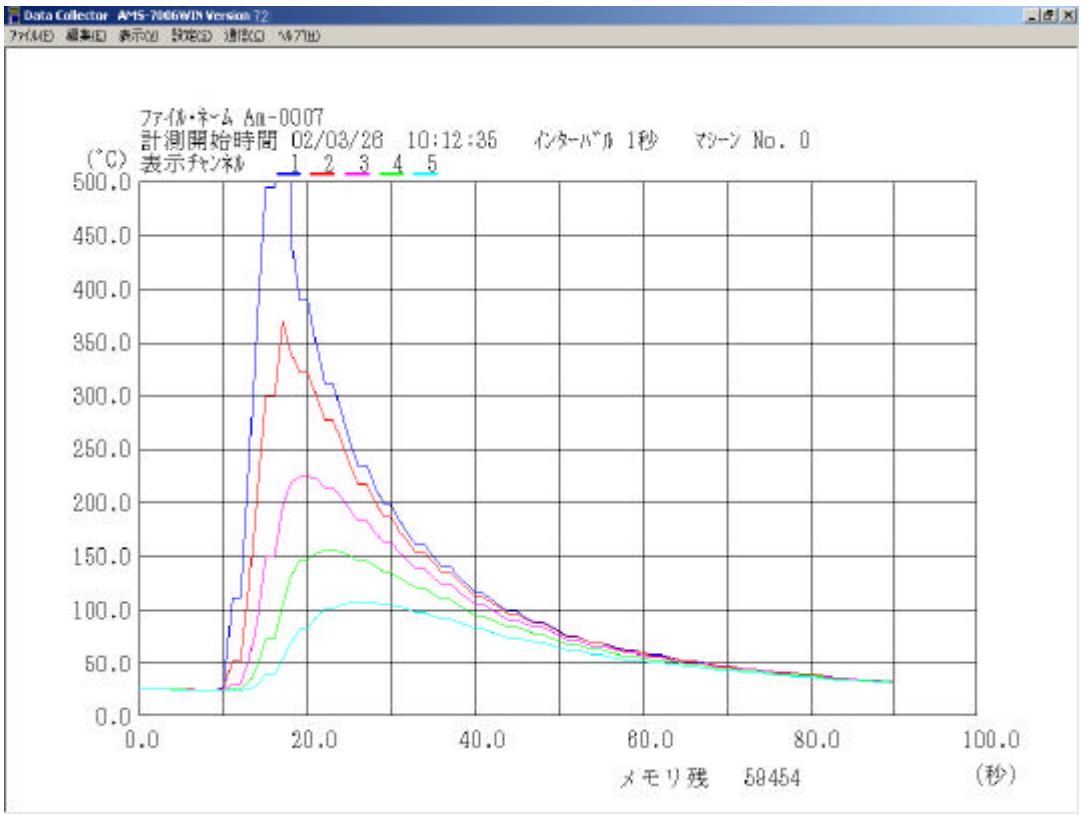
(6) **表示上限電圧**（F）
グラフの電圧に関する目盛りの最大値を設定します。

(7) **表示下限電圧**（G）
グラフの電圧に関する目盛りの最小値を設定します。

(8) **経過時間の表示（H）**
相対時間に固定されます。

※ （4）～（7）はデータコレクタの機種によって選択できないものがあります。

設定終了後，“ＯＫ”を押して下さい。
リアル計測を開始します。



（図３０　リアル計測中の画面）

リアル計測を終了するときは，通信中止（Q）を選択して下さい。

(a) **リアル計測したデータは６００００データまで保存できます。**
リアル計測中にグラフの下方に表示されている“メモリ数”が６００００データまでの残りメモリ数です。メモリ残量が０になると自動的にファイルを保存し，新たにファイル番号を１増やしたファイルで計測を再開します。
但し，ファイルの保存処理のためにリアル計測が一時中断されます。予めご了承下さい。

（例）
“Ａｍ－０００１．ａｎ２”を計測中に６００００データを越えると，“Ａｍ－０００１．ａｎ２”を保存し，新たなファイル“Ａｍ－０００２．ａｎ２”を作成して計測を再開します。

※ 長期計測によってディスク容量が足りなくなったときには，計測が中断され画面にメッセージが表示されます。（参照：Ｐ．３３　図３５）

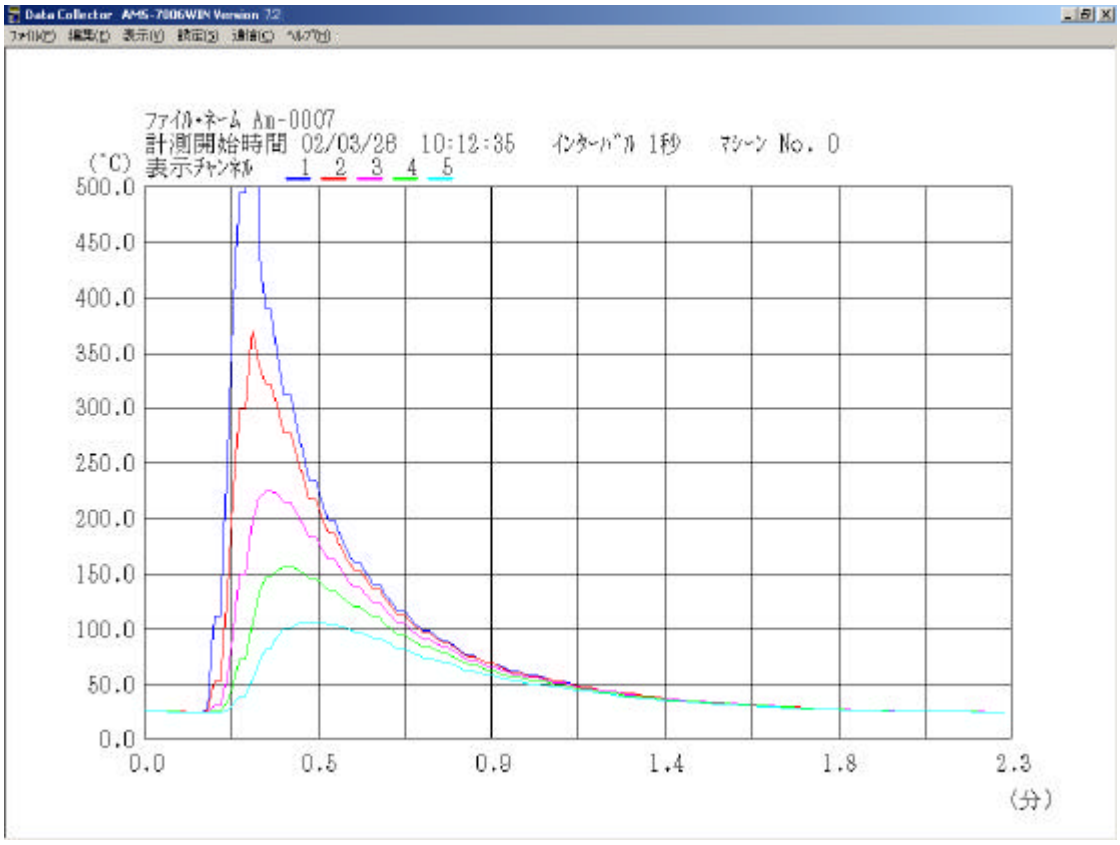
(b) **通信中（リアル計測，データ入力）は，通信中止（Q）のみの操作が可能です。**

(c) リアル計測にてデータ保存中に，ＲＳ－２３２Ｃの不良等により通信が不可能となった場合には，**通信**（C）――＞**通信中止**（Q）を行って下さい。
通信不良になる直前までのデータが保存されます。

(d) ノートパソコン等をご使用の際にリアル計測を行う場合には，レジューム，Ａｕｔｏ　Ｐｏｗｅｒ　ＯＦＦ等の省電力機能が解除されていることをお確かめ下さい。

終了した時の状態は，**表示**（V）で指定したモードによってグラフ表示，データ表示，あるいは備考の表示になります。

（例）グラフ表示の場合



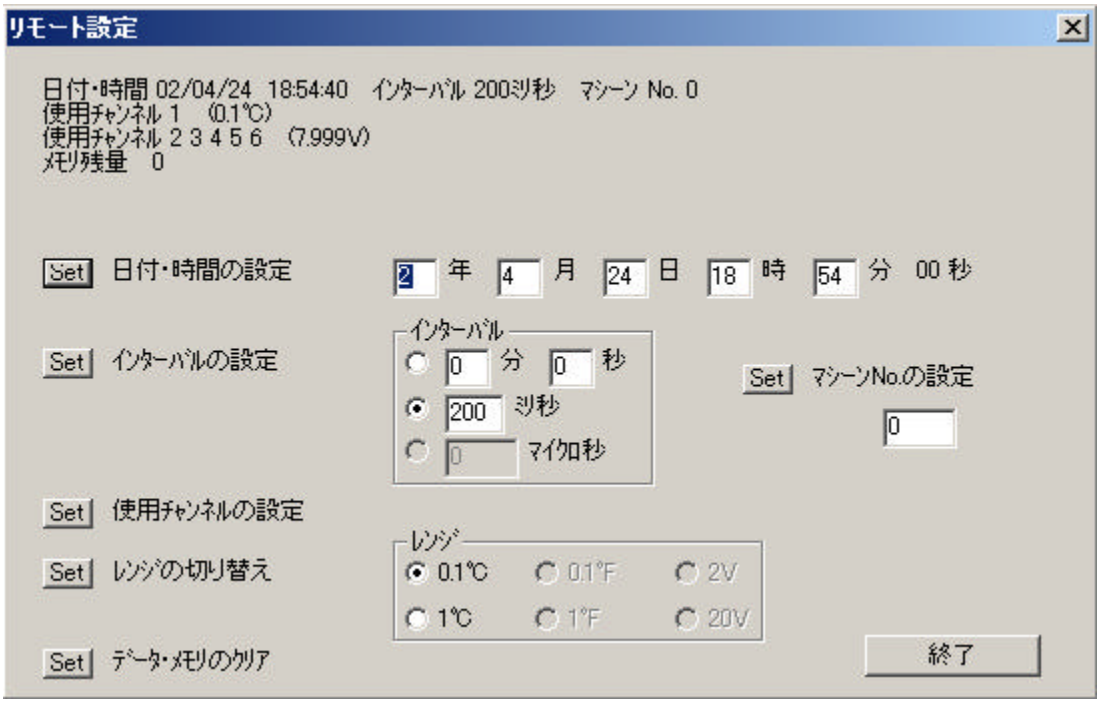
（**図３１**　リアル計測終了後の表示画面）

グラフ表示の場合は，計測していたファイルの全体が見えるように表示されます。

【リモート設定（R）】

ＡＭＳ７００６ＷＩＮにてデータコレクタの設定（日付・時間，インターバル，使用チャンネル等）ができます。

プルダウンメニューの リモート設定（R）を選択して下さい。
次のような設定ダイアログボックスが表示されます。



（図３２　ﾘﾓｰﾄ設定画面）

(a) 日付・時間の設定

データコレクタ内の時計を設定します。年，月，日，時，分を入力して項目の先頭にあるプッシュボタン(Set)を押して下さい。データコレクタ本体の日付・時間が変更されます。

(b) インターバルの変更

データコレクタで計測する際のインターバルを設定します。インターバルを入力後プッシュボタン(Set)を押して下さい。

※ データコレクタの機種によっては，ミリ秒，マイクロ秒の設定もできるようになりますが，プッシュボタン(Set)を押したときに送信されるデータはラジオボタンにマークのついている項目の時間です。時間単位が複数選択可能な機種の場合にはご注意ください。

尚，各機種毎の設定可能なインターバルタイムは次の通りです。

機種	インターバル
AM－７００２ AM－７０５２ AM－７１０２	１秒～９９分５９秒 （１秒毎）
AM－７０１２ AM－７０６２ AM－７１１２	２秒～９９分５９分 （１秒毎）
AM－７００２HS AM－７０５２HS	１秒～９９分５９秒 （１秒毎） ２００ミリ秒～９００ミリ秒 （１００ミリ秒毎）
AM－７１０２HS	１秒～９９分５９秒 （１秒毎） １００ミリ秒～９００ミリ秒 （１００ミリ秒毎）
AM－７０１２HS AM－７０６２HS AM－７１１２HS	１秒～９９分５９秒 （１秒毎） ４００ミリ秒～９９０ミリ秒 （１０ミリ秒毎）
AM－７２００ AM－７３００	１秒～９９分５９秒 （１秒毎） １００ミリ秒～９００ミリ秒 （１００ミリ秒毎） ２００マイクロ秒～９９００マイクロ秒 （１００マイクロ秒毎）

(c) マシンNo.の設定

データコレクタにマシンNo.を設定することができます。マシンNo.を入力してプッシュボタン(Set)を押して下さい。

尚, 設定できるマシンNo.の桁数は機種によって異なります。次の表をご覧下さい。

機種	マシンNo.
AM－７００２ AM－７０５２ AM－７１０２ AM－７０１２ AM－７０６２ AM－７１１２ 高速版（ＨＳ）含む	００～９９
AM－７２００ AM－７３００	００００～９９９９

(d) 使用チャンネルの設定

計測に使用するチャンネルの設定をします。
使用チャンネルの設定項目のプッシュボタン(Set)をクリックするとチャンネル設定画面が表示されます。
各チャンネルのモード（温度，電圧，未使用）を選択して“ＯＫ”を押して下さい。
（使用できるチャンネル数やモードは機種によって異なります。）

(e) レンジの切り替え

データコレクタで計測するデータの分解能を設定します。
希望のレンジを選択してプッシュボタン(Set)を押して下さい。
(機種によって選択できるレンジが異なります。)

(f) データメモリのクリア

データコレクタのメモリに記憶されている計測データをクリアします。
プッシュボタン(Set)を押して下さい。

※　必要なデータはパソコン内に保存してから行って下さい。

設定が完了しましたら“終了”を押して下さい。

【ＳＴＡＲＴ，ＥＮＤコマンド】

ＳＴＡＲＴコマンド（Ｓ）　――＞　データコレクタでの計測を開始します。

ＥＮＤコマンド（Ｅ）　　――＞　データコレクタでの計測を終了させます。

データコレクタがスリープモード（データコレクタ本体付属の取扱説明書参照）又は高速インターバルの時には，ＥＮＤコマンドを処理できません。
その場合は，本体のＥＮＤキーを押して下さい。

【シリアルポート】

ＡＭＳ-７００６ＷＩＮでデータコレクタと通信を行うためには，データコレクタを接続したシリアルポートを指定する必要があります。
通信メニューの下方にあるシリアルポートの項目の中から，ＣＯＭ１～ＣＯＭ６の何れかを選択して下さい。選択した項目には，チェックマークが表示されます。

※　シリアルポートの設定は，アプリケーション終了時に保存されるため次に起動させたときには，終了直前の設定状態となります。
（但し，使用途中で電源等が切れたときには保存されません。）

シリアルポートについて

ＡＭＳ-７００６ＷＩＮでは，６種類のシリアルポート（ＣＯＭ１～ＣＯＭ６）が使用可能ですが，シリアルポートの数はパソコンによって異なります。
また，他の用途（モデム等）で既に使用されている場合等がございますので，予め利用可能なポートの場所をご確認下さい。
シリアルポートが使用できない場合，（図３８　通信不能）の様なエラーメッセージが表示されます。

6．7　ヘルプ（H）

ヘルプには，次の２種類の項目があります。

（1）　データコレクタ適用機種名の表示

（図３３　適応機種名）

（2）　バージョンNo.の表示

（図３４　ﾊﾞｰｼﾞｮﾝ情報）

7 エラーメッセージ

本アプリケーションソフトにおける代表的なエラーメッセージを紹介します。
次のようなメッセージが表示されたらメッセージに従って下さい。

(1)　ディスクの容量が足りない場合

（図３５　ﾃﾞｨｽｸ容量ｵｰﾊﾞｰ）

(2)　データコレクタにデータが保存されていない場合

（図３６　ﾃﾞｰﾀ無し）

(3)　データ入力値が正しくない場合

（図３７　設定値入力ﾐｽ）

(4)　データコレクタと通信ができない場合

（図３８　通信不能）

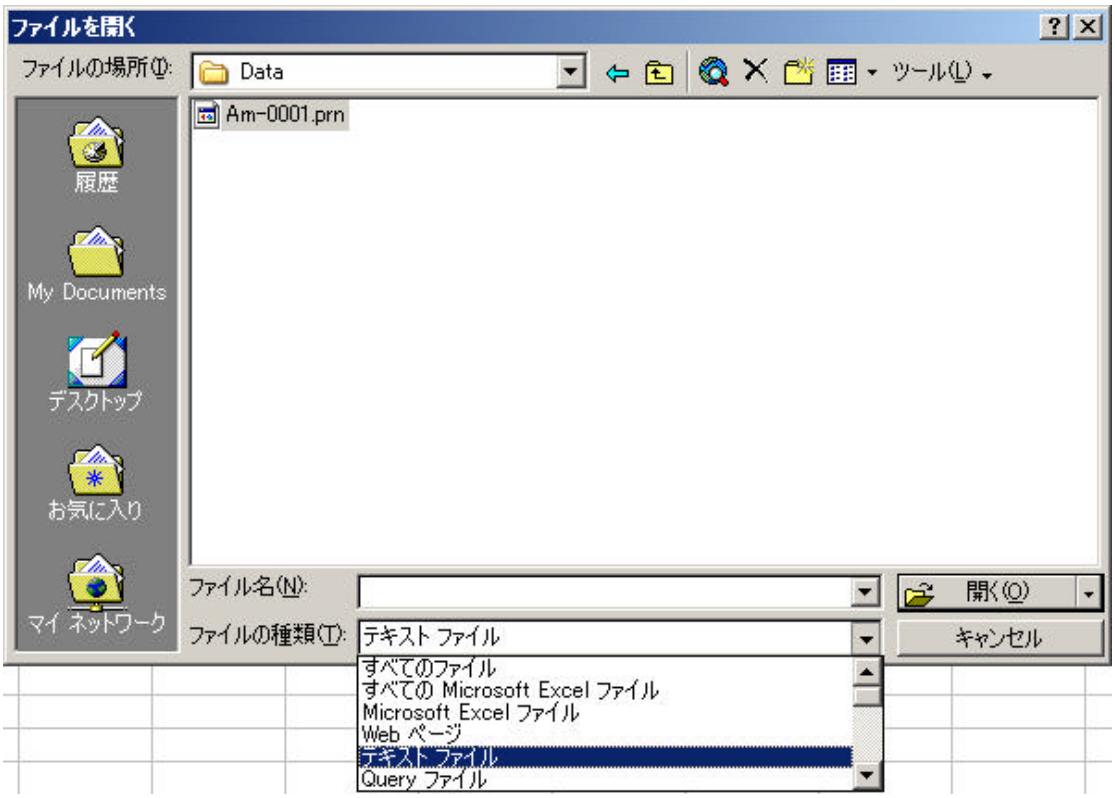
※　この他Ｗｉｎｄｏｗｓ（システム）によって表示されるエラーがあります。
　　このような場合は，Ｗｉｎｄｏｗｓのマニュアル書等を参照して下さい。

8　参考資料

《テキストファイルの利用方法》
作成したテキストファイル（＊．ＰＲＮ）を表計算ソフトでご利用になる場合には次の手順で行って下さい。

（注）　Ｅｘｃｅｌ　２０００の画面を使って説明いたしますが，他の表計算ソフトにおいても同様にしてご利用になれます。

（Ｅｘｃｅｌ：ファイルを開く）

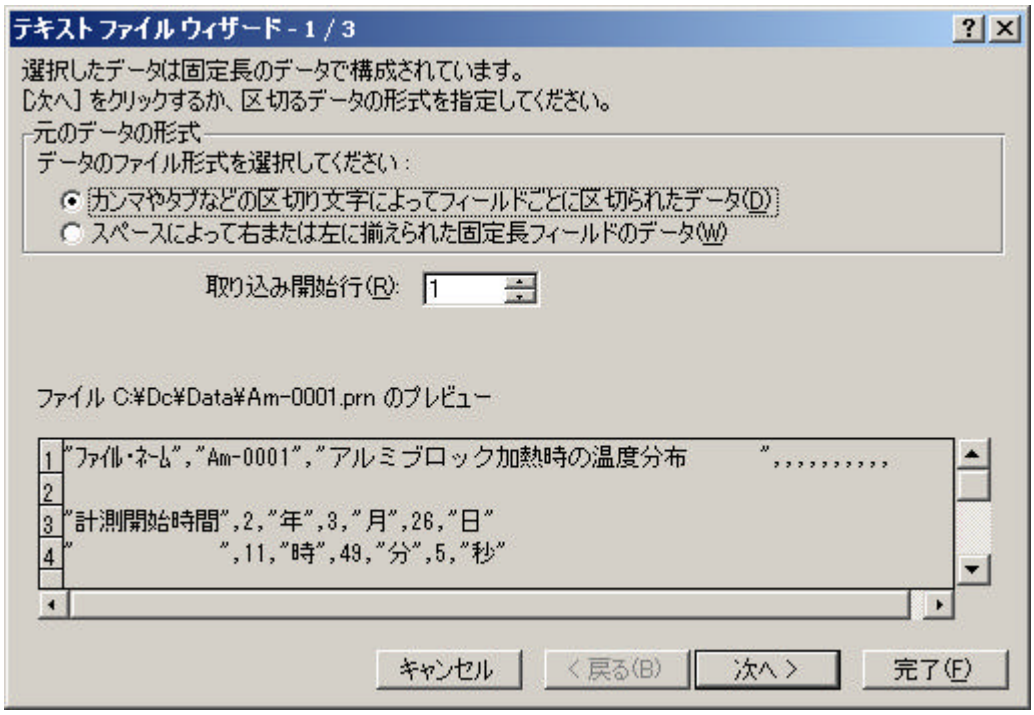


（図３９　Ｅｘｃｅｌのファイルを開く）

表計算ソフトで，テキストファイル（＊．ＰＲＮ）を開けるように設定します。

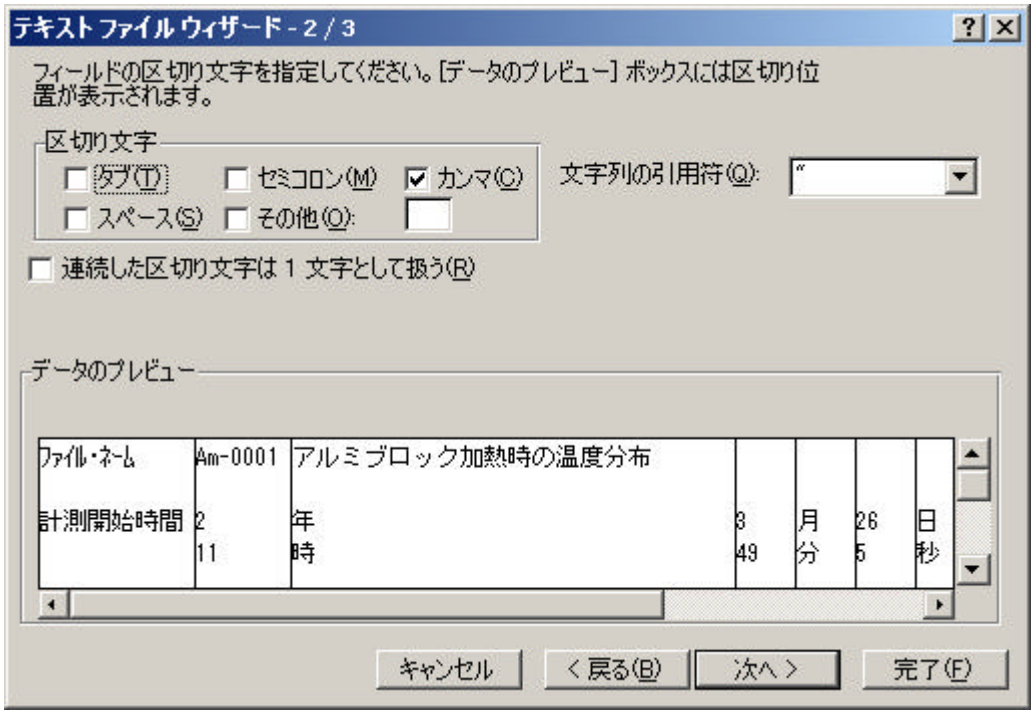
表計算ソフトの“ファイルを開く”ダイアログ画面で，開くファイルの種類を“テキストファイル”にして下さい。
次に，ＡＭＳ７００６ＷＩＮで作成したテキストファイルのあるディレクトリに移動すると“Ａｍ－＊＊＊＊．ｐｒｎ”ファイルが画面に表示されますので，開きたいファイルを選択してから“開く”ボタンを押して下さい。テキストファイルを開く形式を決めるウィザードが表示されますのでテキストファイルが“カンマ”で区切られたデータであることを設定します。

（Ｅｘｃｅｌ：ファイル形式の指定①）



（図４０　Ｅｘｃｅｌのテキストファイルウィザード①）

“元のデータの形式”の中の“カンマやタブなどの・・・”を選択して“次へ”ボタンを押して下さい。画面が次のように変わります。（Ｅｘｃｅｌ：ファイル形式の指定②）



（図４１　Ｅｘｃｅｌのテキストファイルウィザード）

“区切り文字”を“カンマ”にしてから“完了”ボタンを押して下さい。

以上の操作でテキストファイル（＊．ＰＲＮ）を表計算ソフトに取り込むことができます。

尚，表計算ソフトでファイルを保存する際に，ご使用になっている表計算ソフトのファイル形式で保存していただければ，次回からは通常の操作でご利用いただけるようになります。

※　データが「ＯＶＥＲ」の場合は以下のように変更されます。

分解能	ＯＶＥＲ
０．１℃分解	３２７６．７℃
１℃分解	３２７６７℃
０．１ｍＶ分解	３２７６．７ｍＶ
０．０００１Ｖ分解	３２．７６７Ｖ

（表計算ソフトでの表示例）

－－－時間の表示なし－－－

	A	B	C	D	E	F	G
1	ﾌｧｲﾙ･ﾈｰﾑ	Am-0001	アルミブロック加熱時の温度分布				
2							
3	計測開始時	2	年	3	月	26	日
4		11	時	49	分	5	秒
5							
6	ｲﾝﾀｰﾊﾞﾙ	0	時	0	分	1	秒
7		0	ミリ秒	0	ﾏｲｸﾛ秒		
8							
9	ﾏｼｰﾝNo.	0					
10							
11							
12		ﾌｧｲﾙ･ﾈｰﾑ Am-0001　アルミブロック加熱時の温度分布					
13		計測開始時間 02/03/26　11:49:05　ｲﾝﾀｰﾊﾞﾙ 1秒　ﾏｼｰﾝ No. 0					
14							
15	ｻﾝﾌﾟﾙNo.	1ch.[℃]	2ch.[℃]	3ch.[℃]	4ch.[℃]	5ch.[℃]	6ch.[℃]
16	1	23.4	23.6	23.8	24	24.1	22.4
17	2	23.3	23.5	23.7	23.9	24	22.4
18	3	23.1	23.4	23.6	23.7	23.8	22.4
19	4	23	23.2	23.4	23.6	23.7	22.4
20	5	22.9	23.1	23.3	23.4	23.5	22.4
21	6	22.9	23	23.2	23.3	23.4	22.4
22	7	22.8	23	23.1	23.3	23.4	22.4
23	8	22.8	22.9	23.1	23.2	23.3	22.4
24	9	22.8	22.9	23	23.1	23.3	22.4
25	10	22.7	22.8	23	23.1	23.2	22.4
26	11	22.7	22.8	23	23	23.1	22.4
27	12	22.7	22.8	22.9	23	23.1	22.4
28	13	22.7	22.8	22.9	23	23.1	22.4
29	14	22.8	22.8	23	23	23.1	22.4
30	15	22.9	22.9	23	23.1	23.2	22.4
31	16	23	23	23.1	23.1	23.2	22.4
32	17	23	23.1	23.1	23.2	23.3	22.4
33	18	23.1	23.1	23.2	23.3	23.3	22.4
34	19	23.3	23.3	23.3	23.3	23.4	22.4
35	20	23.4	23.4	23.4	23.4	23.4	22.4
36	21	23.6	23.5	23.4	23.4	23.4	22.4

（図４２　Ｅｘｃｅｌでの表示例①）

－－－相対時間表示－－－

	A	B	C	D	E	F	G	H
1	ﾌｧｲﾙ･ﾈｰﾑ	Am-0001	アルミブロック加熱時の温度分布					
2								
3	計測開始時	2	年	3	月	26	日	
4		11	時	49	分	5	秒	
5								
6	ｲﾝﾀｰﾊﾞﾙ	0	時	0	分	1	秒	
7		0	ミリ秒	0	マイクロ秒			
8								
9	ﾏｼｰﾝNo.	0						
10								
11								
12		ﾌｧｲﾙ･ﾈｰﾑ Am-0001　アルミブロック加熱時の温度分布						
13		計測開始時間 02/03/26　11:49:05　ｲﾝﾀｰﾊﾞﾙ 1 秒　ﾏｼｰﾝ No. 0						
14								
15	ｻﾝﾌﾟﾙNo.	時:分:秒	1 ch.[℃]	2 ch.[℃]	3 ch.[℃]	4 ch.[℃]	5 ch.[℃]	6 ch.[℃]
16	1	00:00:00	23.4	23.6	23.8	24	24.1	22.4
17	2	00:00:01	23.3	23.5	23.7	23.9	24	22.4
18	3	00:00:02	23.1	23.4	23.6	23.7	23.8	22.4
19	4	00:00:03	23	23.2	23.4	23.6	23.7	22.4
20	5	00:00:04	22.9	23.1	23.3	23.4	23.5	22.4
21	6	00:00:05	22.9	23	23.2	23.3	23.4	22.4
22	7	00:00:06	22.8	23	23.1	23.3	23.4	22.4
23	8	00:00:07	22.8	22.9	23.1	23.2	23.3	22.4
24	9	00:00:08	22.8	22.9	23	23.1	23.3	22.4
25	10	00:00:09	22.7	22.8	23	23.1	23.2	22.4
26	11	00:00:10	22.7	22.8	23	23	23.1	22.4
27	12	00:00:11	22.7	22.8	22.9	23	23.1	22.4
28	13	00:00:12	22.7	22.8	22.9	23	23.1	22.4
29	14	00:00:13	22.8	22.8	23	23	23.1	22.4
30	15	00:00:14	22.9	22.9	23	23.1	23.2	22.4
31	16	00:00:15	23	23	23.1	23.1	23.2	22.4
32	17	00:00:16	23	23.1	23.1	23.2	23.3	22.4
33	18	00:00:17	23.1	23.1	23.2	23.3	23.3	22.4
34	19	00:00:18	23.3	23.3	23.3	23.3	23.4	22.4
35	20	00:00:19	23.4	23.4	23.4	23.4	23.4	22.4
36	21	00:00:20	23.6	23.5	23.4	23.4	23.4	22.4

（図４３　Ｅｘｃｅｌでの表示例②）

－－－絶対時間表示－－－

	A	B	C	D	E	F	G	H	I
1	ﾌｧｲﾙ･ﾈｰﾑ	Am-0001	アルミブロック加熱時の温度分布						
2									
3	計測開始時	2	年	3	月	26	日		
4		11	時	49	分	5	秒		
5									
6	ｲﾝﾀｰﾊﾞﾙ	0	時	0	分	1	秒		
7		0	ﾐﾘ秒	0	ﾏｲｸﾛ秒				
8									
9	ﾏｼｰﾝNo.	0							
10									
11									
12		ﾌｧｲﾙ･ﾈｰﾑ Am-0001　アルミブロック加熱時の温度分布							
13		計測開始時間 02/03/26　11:49:05　ｲﾝﾀｰﾊﾞﾙ 1秒　ﾏｼｰﾝ No. 0							
14									
15	ｻﾝﾌﾟﾙNo.	年/月/日	時:分:秒	1ch.[℃]	2ch.[℃]	3ch.[℃]	4ch.[℃]	5ch.[℃]	6ch.[℃]
16	1	2002/3/26	11:49:05	23.4	23.6	23.8	24	24.1	22.4
17	2	2002/3/26	11:49:06	23.3	23.5	23.7	23.9	24	22.4
18	3	2002/3/26	11:49:07	23.1	23.4	23.6	23.7	23.8	22.4
19	4	2002/3/26	11:49:08	23	23.2	23.4	23.6	23.7	22.4
20	5	2002/3/26	11:49:09	22.9	23.1	23.3	23.4	23.5	22.4
21	6	2002/3/26	11:49:10	22.9	23	23.2	23.3	23.4	22.4
22	7	2002/3/26	11:49:11	22.8	23	23.1	23.3	23.4	22.4
23	8	2002/3/26	11:49:12	22.8	22.9	23.1	23.2	23.3	22.4
24	9	2002/3/26	11:49:13	22.8	22.9	23	23.1	23.3	22.4
25	10	2002/3/26	11:49:14	22.7	22.8	23	23.1	23.2	22.4
26	11	2002/3/26	11:49:15	22.7	22.8	23	23	23.1	22.4
27	12	2002/3/26	11:49:16	22.7	22.8	22.9	23	23.1	22.4
28	13	2002/3/26	11:49:17	22.7	22.8	22.9	23	23.1	22.4
29	14	2002/3/26	11:49:18	22.8	22.8	23	23	23.1	22.4
30	15	2002/3/26	11:49:19	22.9	22.9	23	23.1	23.2	22.4
31	16	2002/3/26	11:49:20	23	23	23.1	23.1	23.2	22.4
32	17	2002/3/26	11:49:21	23	23.1	23.1	23.2	23.3	22.4
33	18	2002/3/26	11:49:22	23.1	23.1	23.2	23.3	23.3	22.4
34	19	2002/3/26	11:49:23	23.3	23.3	23.3	23.3	23.4	22.4
35	20	2002/3/26	11:49:24	23.4	23.4	23.4	23.4	23.4	22.4
36	21	2002/3/26	11:49:25	23.6	23.5	23.4	23.4	23.4	22.4

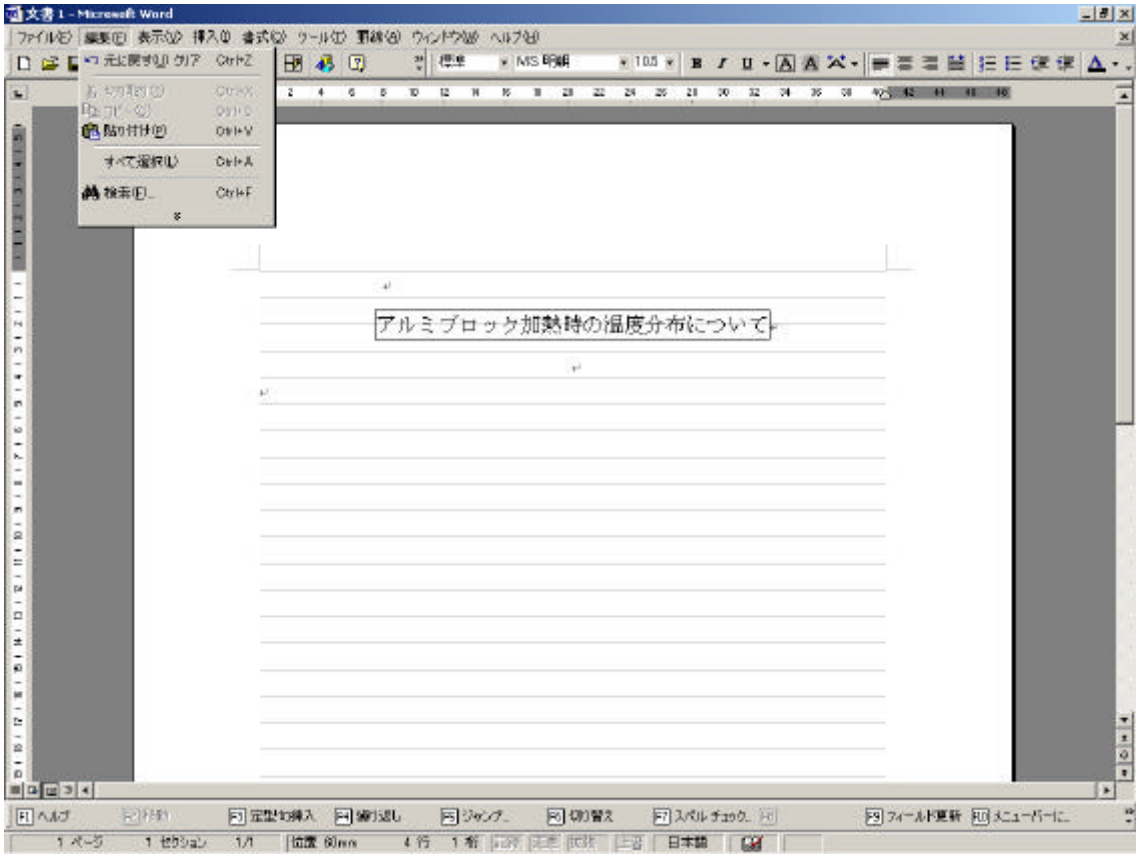
（図４４　Ｅｘｃｅｌでの表示例③）

《**編集**（E）＝＞**コピー**（C）**の利用方法**》

ＡＭＳ-７００６ＷＩＮの編集（E）＝＞コピー（C）にてクリップボードに取り込んだ画面データをワープロソフト等でご利用になる場合には次の手順で行って下さい。

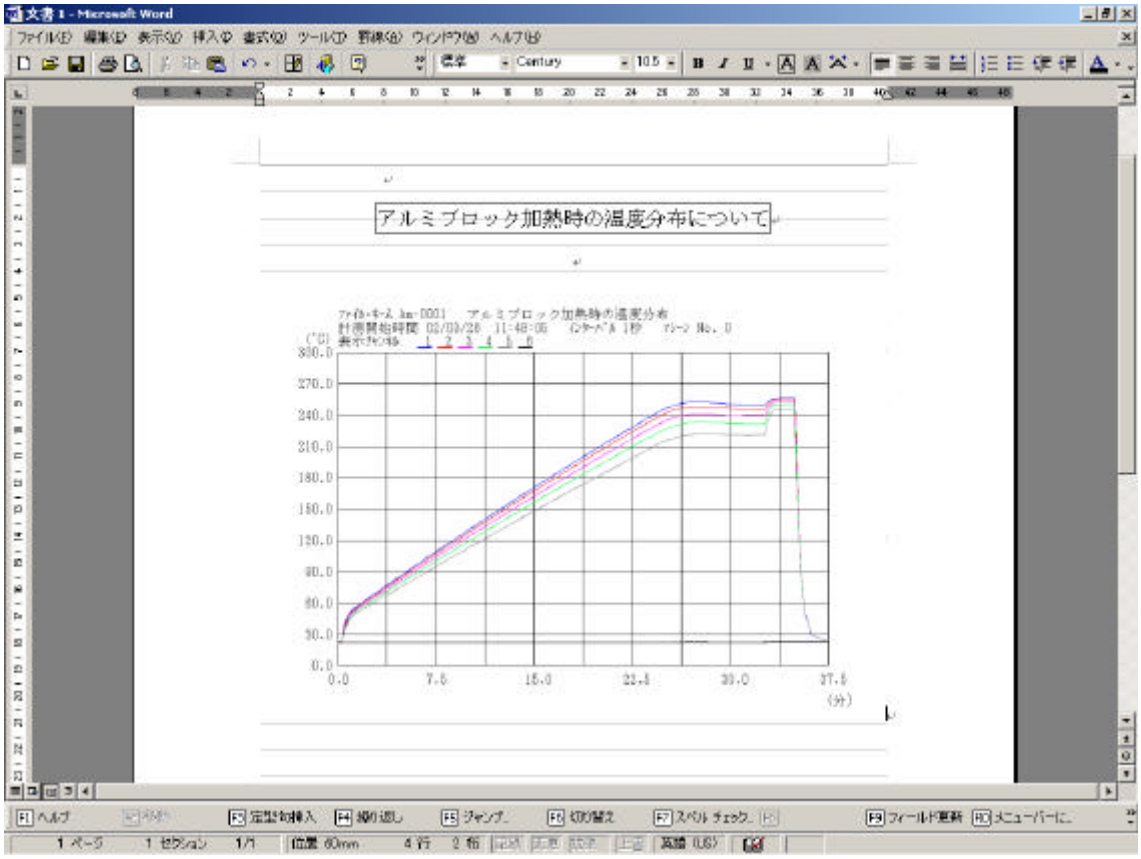
（注） Ｗｏｒｄ ２０００の画面を使って説明いたしますが，他のワープロソフトにおいても同様にしてご利用になれます。

Ｗｏｒｄを起動します。また，文章を入力している途中でもかまいません。
Ｗｏｒｄの編集（E）を選択しますとプルダウンメニューが開きます。



（図４５　Ｗｏｒｄ編集画面）

プルダウンメニューの**貼り付け**（P）を選択するとクリップボードに取り込んだ画面データを貼り付けることができます。



（図４６　Ｗｏｒｄクリップボード貼り付け後）

（注）クリップボードにコピーできるのは１画面です。複数のグラフデータをコピーしたい場合は，上記操作を繰り返してください。